

HITACHI
Inspire the Next

Prius
Air 630H/610H

同梱品を確認しよう 1

接続しよう 2

電源を入れよう 3

電源を入れ直そう 4

いろいろな使い方をするために 5

再セットアップについて 6

付録

接続と準備

最初に読む本





マニュアルはよく読み、保管してください。

- 製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
- このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

お使いになる前に

このたびは日立のシステム装置（以下、パソコン）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
次の内容と各マニュアルの内容をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

マニュアルの表記について

 重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
 ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
 参照	参照先を示します。
 用語	パソコンの用語を解説します。
CD/DVD ドライブ	DVD マルチドライブを表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。
Windows、Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition を表記します。

本書では、パソコンの形名に応じて次のように表記しています。
パソコンの形名は、本体の底面に記載されています。

表記		形名
ディスプレイ	テレビチューナ	
ワイド液晶モデル	テレビチューナ内蔵モデル	PCF-630H17WVC3
液晶ディスプレイモデル		—

- ・ マニュアルで使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。また、説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、省略している場合があります。
- ・ URL、お問い合わせ先、画面などは、マニュアル制作時点のものです。

保証書について

- ・ 保証書は、所定事項が記入されたものをお受け取りになり、大切に保管しておいてください。
- ・ 保証期間中に万一故障した場合は、保証書の記載内容に基づいて無料で修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- ・ 保証期間終了後の修理については、Prius 集中修理センタにご相談ください。詳しくは、『困った時の Q&A』最初の頁をご参照ください。

使用許諾について

このたびは、日立パーソナルコンピューター Prius シリーズをお買い上げいただきありがとうございます。システム装置をご使用になる前に下記使用許諾契約書を必ずお読みいただきご了承くださいませようお願いいたします。

本契約は、システム装置の使用をもってご承諾いただいたものとさせていただきます。本契約をご承諾いただけない場合は、ただちに全てのシステム装置のパッケージと同封物（マニュアル及びその他の印刷物、バインダー、外装パッケージ、その他一切のもの）をお買い求めの販売店にご返却ください。この使用許諾契約書は、お客様が適法に使用許諾を受けたことの証明となります。

本契約は、システム装置とともに取得したソフトウェアに適用されます。ただし、特定のソフトウェアについて「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等がある場合は、本契約に優先して適用されます。

使用許諾契約書

第 1 条 許諾

日立製作所は、お客様に対し、本契約書とともに取得したソフトウェア（以下「本ソフトウェア」といいます）に関し、以下の権利を許諾します。

- (a) お客様は、本ソフトウェアを本ソフトウェアとあわせて取得したコンピューターに限り使用することができます。
- (b) 本ソフトウェアには、独立した機能をコンピューター上で実行する複数のコンポーネントが含まれていますが、全てのコンポーネントをもって1つの製品として扱わなければなりません。

第 2 条 著作権

(a) 本ソフトウェア及び添付マニュアル等の著作権は、日立製作所またはそれぞれの開発元が有するものであり、日本国著作権法、アメリカ合衆国著作権法及び国際条約等により保護されています。

第 3 条 その他の条件

- (a) お客様は、本ソフトウェア及び本ソフトウェアに付属する全ての印刷物を複製できません。
- (b) お客様は、本ソフトウェアを譲渡、貸出、移転、その他の方法で第三者に使用させないでください。
- (c) お客様は、本ソフトウェアについて逆コンパイル、逆アセンブルをすることはできません。

第 4 条 品質保証

- (a) 日立製作所は、本ソフトウェアに付属する全ての印刷物に乱丁・落丁がある場合、お買い上げ後 90 日間に限り補修又は交換に応じるものとします。
- (b) いかなる場合においても、日立製作所ならびに本ソフトウェア著作権保有者は本ソフトウェアの使用又は使用不能から生ずるいかなる損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失又はその他金銭的損害を含むがこれらに限定されない）に関して、一切責任を負わないものとします。

第 5 条 契約の解除

お客様が本契約に違反した場合、日立製作所は、本契約を解除することができます。その場合、お客様は、本ソフトウェアを一切使用しないものとします。

株式会社日立製作所

パソコンを安全にお使いいただくために

■安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- ・ 操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
 - ・ 装置やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- これを怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

■シンボルについて

安全に関する注意事項は、次に示す見出しによって表示されます。これは安全注意シンボルと「警告」および「注意」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全注意シンボルです。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。



これは、死亡または重大な傷害を引き起こすかもしれない潜在的な危険の存在を示すのに用います。



これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

注意

これは、装置の重大な損傷、または周囲の財物の損害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



【表記例1】感電注意

△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例2】分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。



【表記例3】電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

■操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。装置について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡ください。

■自分自身でもご注意を

装置やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を越えた事態が起こることが考えられます。操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

警告



異常な熱さ、煙、異常音、異臭

万一異常が発生した場合は、電源スイッチを OFF にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電、火災の原因になります。また、すぐに電源プラグを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。



修理・改造・分解

本書の指示に従って行うオプションなどの増設作業を除いては、自分で修理や改造・分解をしないでください。火災や感電、やけどの原因になります。特に電源ユニット内部は高電圧が数多くあり、万一さわると危険です。



装置内部への異物の混入

通気孔などから内部にクリップや虫ピンなどの金属類や燃えやすい物などを入れないでください。そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



パソコンカバーの取り外し

パソコンカバーを取り外すときは、電源スイッチを OFF にし、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。



電源コードの扱い

電源コードは必ず付属のものを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したりショートや一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。

- ・ものを載せない
- ・引っ張らない
- ・押しつけない
- ・折り曲げない
- ・加工しない
- ・熱器具のそばで使わない
- ・束ねない



装置上に物を置く

花びん、植木鉢など水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属物を置かないでください。内部に入った場合、そのまま使用すると、感電や発煙、発火の原因になります。



揮発性液体の近くでの使用

マニキュア、ペディキュアや除光液など揮発性の液体は、パソコンの近くで使わないでください。パソコンの中に入って引火すると火災の原因になります。



電源プラグの抜き差し

- ・電源プラグをコンセントに差し込むとき、または抜くときは必ず電源プラグを持って行ってください。電源コード部分を引っ張るとコードの一部が断線してその部分が過熱し、火災の原因になります。
- ・休暇や旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。使用していないときも通電しているため、万一、部品破損時には火災の原因になります。
- ・電源プラグをコンセントから抜き差しするときは、乾いた手で行ってください。濡れた手で行うと感電の原因になります。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因になります。

- ・電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。
- ・電源プラグは、ほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってから、差し込んでください。
- ・グラグラしないコンセントを使ってください。

警告



落下などによる衝撃

落下させたり、ぶつけるなど過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、そのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



使用する電源

使用できる電源は交流 100 V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさに従って内部が破損したり過熱・劣化して感電や火災の原因になります。



日本国以外の使用

本パソコンは日本国内専用です。電圧の違いや環境の違いにより国外で使用すると火災や感電の原因になります。また他国には独自の安全規格が定められており本パソコンは適合していません。



電池の取り扱い

電池は次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因となります。

- ・ 電池の＋、－を正しく入れる
- ・ 火の中に入れない
- ・ ショートさせたり、分解、加熱しない
- ・ 指定以外の電池は使用しない
- ・ 電池の＋、一部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない
- ・ 電池を金属製のピンセットなどでつままない
- ・ 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく

 参照 関連ページ→P.19



電池の保管

- ・ 電池を保管する場合は、端子に絶縁テープをはり、絶縁状態にしてください。絶縁状態にしないで電池を保管すると、端子間どうしが接触ショートし過熱・破裂・発火などでけがをしたり、火災の原因になります。
- ・ 電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。




電池の廃棄

取り外した電池を廃棄するときは、お買い求め先に相談していただくか、地方自治体の条例または規則に従ってください。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。

 参照 関連ページ→P.25、P.27 P.29



湿気やほこりの多い場所での使用

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。

 参照 関連ページ→P.17



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると、発煙、発火や感電の原因となります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。



電源スイッチについて

電源スイッチを OFF にしても、一部の回路には通電されています。休暇や旅行など長期間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。万一、部品破損時には火災の原因になります。



周辺機器の増設や接続

周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してください。また、マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

警告



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。



パソコンスタンドの取り付け

縦置きの場合は、付属のパソコンスタンドを正しい位置に必ず取り付けてください。横置きの場合は、付属のゴム足を必ず取り付けてください。正しく取り付けないと、通気孔がふさがれ、発煙、発火や故障の原因になります。また、転倒し、けがや故障の原因になります。

参照 関連ページ→ 20 ページ



電話線またはテレビアンテナ線への接続と使用

雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.39 P.43 P.45



モジュラーケーブルについて

- ・ パソコンのカバーを開ける場合には、パソコンからモジュラーケーブル（電話線）を必ず外してください。呼び出し（ベル）着信時および雷が鳴っているときは感電するおそれがあります。
- ・ モデムケーブルは、同梱のものを使って2線式のアナログ回線に接続してください。それ以外に接続すると、故障するおそれがあります。

参照 関連ページ→ P.39



梱包用ポリ袋について

パソコンの梱包用エアークャップなどのポリ袋は、お子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。

注意



接続端子への接触

USB コネクターなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙したり接触不良などにより故障の原因になります。



部品の追加・交換

電源を切った直後は、カバーや内部の部品が熱くなっています。約30分、時間をおいてから行ってください。やけどの原因になります。

参照 関連ページ→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「増設作業時のお願い」



金属など端面への接触

パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをすることがあります。

参照 関連ページ→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「増設作業時のお願い」



不安定な場所での使用

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをすることがあります。

参照 関連ページ→P.17



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、パソコン本来の目的以外に使用しないでください。壊れたり、倒れたりし、けがや故障の原因になります。



信号ケーブルについて

- ・ ケーブルは足などに引っかけないように、配線してください。足をひっかけると、けがや接続機器の故障の原因になります。また、大切なデータが失われるおそれがあります。
- ・ ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因になります。



ヘッドホンやイヤホン

ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

参照 関連ページ→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「ヘッドホン、マイクを接続する」



眼精疲労について

ディスプレイを見る作業を行うときは、作業場を300～1000ルクスの明るさにしてください。また、連続作業するときは、1時間に10分から15分程度の休息をとってください。長時間ディスプレイを見続けると、眼に疲労が蓄積されます。



光学式マウスについて

マウスの底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。



電池について

リモコンを長期間使用しないときは、電池を取り外してください。取り外さないと、液漏れによりやけどをしたり、リモコンが故障するおそれがあります。

参照 関連ページ→P.19

注意



屋外での使用

屋外では使用しないでください。故障の原因になります。



パソコンの廃棄

本製品を廃棄する場合は、適正なりサイクル処理をお願いします。

「資源の有効な利用の促進に関する法律（通称：改正リサイクル法）」にもとづき、パソコン製造事業者である弊社は、お客さまのご依頼にもとづく事業者（法人所有）向けのパソコンの回収リサイクルサービスと、ご家庭（個人所有）向けのパソコンの回収リサイクルサービスを提供しています。当該サービスでは回収リサイクルの効果を上向きさせるなど、法律の趣旨に的確に対応していますので、ご利用ください。

参照 お問い合わせ先→「困った時のQ&A」
2章「お問い合わせ情報」



スタンドについて

スタンドを取り付けた状態で、パソコンを傾けないでください。スタンドが壊れることがあります。



ボードの取り扱いについて

ボードを取り扱う場合は、静電気をあらかじめ取り除くか、綿手袋などを着用してください。静電気を取り除かないで、コネクタ部などの電気部品に触れると壊れるおそれがあります。



バックアップについて

ハードディスク装置のデータなどの重要な内容は必ず補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク装置が壊れると、データなどがすべてなくなってしまう可能性があります。



電波障害について

ほかのエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。

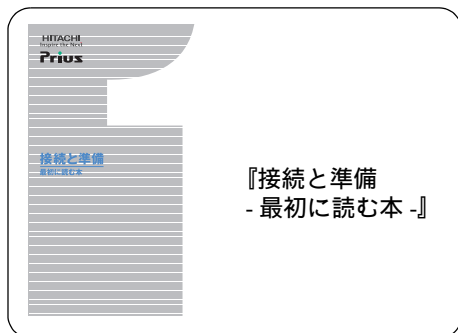
- ・ テレビやラジオなどからできるだけ離す
- ・ テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える
- ・ コンセントを別にする

パソコンを使いこなすまで

本書は、あなたがパソコンユーザーとして第一歩を踏み出すための案内書です。このページでは、パソコンを購入してからパソコンを使いこなすまでの道すじを、マニュアルの読み進め方や使い方とともに紹介します。

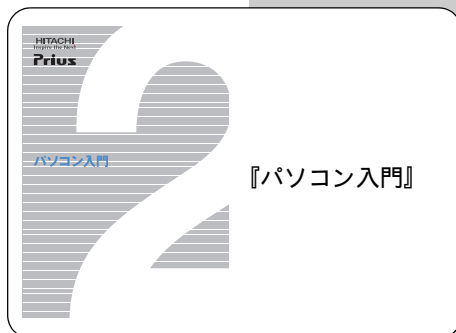
マニュアルに書いてある番号順に読んでください。

準備と接続、そしていよいよ
スイッチ ON!



『接続と準備
- 最初に読む本 -』

パソコンの基本を知っておこう!



『パソコン入門』

■1 『接続と準備 - 最初に読む本 -』

パソコンを購入してからはじめて電源を入れて動作させるまでに、必要な接続などの準備について説明しています。最初にお読みください。

■2 『パソコン入門』

キーボードやマウス、Windows の使い方などを説明しています。2 番目に読むマニュアルです。

■3 『始めよう！ インターネット』（紙マニュアルは添付されません）

インターネットの始め方について説明しています。インターネットでできることや楽しみ方についても紹介しています。

■3 『始めよう！ TV エンターテインメント』

パソコンでテレビを見たい方はお読みください。テレビとしての使い方や録画再生、映像データの編集などをまとめています。Air モデル専用アプリケーションについても説明しています。

■4 『パソコン応用』（紙マニュアルは添付されません）

パソコンについての詳しい情報や、パソコンの拡張について説明しています。パソコンをさらに使いこなしたいときにお読みください。

■『アプリケーションガイド』

各アプリケーションの簡単な使い方などをまとめています。

■『困った時の Q&A』

トラブルの解決方法などについて説明しています。パソコンや各アプリケーションの問い合わせ先についても紹介しています。

■電子マニュアル『活用百科』 CD-ROM

本書を含めマニュアルは、電子マニュアルにして CD に収録しています。電子マニュアルの見方は、『パソコン入門』で説明しています。

用語

Windows

パソコンを操作するための基本ソフトウェア。OS(オペレーティングシステム)とも呼ばれます。

用語


インターネット

全世界のネットワークを相互に接続し、そのあいだを自由に行き来できるようにした巨大なコンピュータネットワークのこと。

重要


◎ 『始めよう！インターネット』と『パソコン応用』は電子マニュアルで提供、紙マニュアルは添付されません。

パソコンでいろいろできる！



始めよう！
インターネット


『始めよう！
インターネット』
電子マニュアルのみ
紙マニュアルは添
付されません。



始めよう！
TVエンターテイン
メント


『始めよう！
TVエンターテイン
メント』

パソコンを使いこなす！




パソコン応用

『パソコン応用』
電子マニュアルのみ
紙マニュアルは添
付されません。



電子マニュアル
『活用百科』


ソフトウェアを使いこなす！



ApplicationGuide
アプリケーションガイド

『アプリケーション
ガイド』

トラブルが起きてしまったら



困った時のQ&A

『困った時の Q&A』

作業の流れをつかんでおこう

ここでは、このマニュアルで行う作業の流れを説明します。
購入後、箱を開けてからはじめてパソコンの電源を入れるまでには、いくつかのステップがあります。

同梱品の確認



「1. 同梱品を確認しよう」

箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを確認します。

接続する



「2. 接続しよう」

パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所や姿勢を知っておきましょう。そのあとパソコンを動作させるために、接続します。

電源を入れる



「3. 電源を入れよう」

電源を入れて、Windows を使えるようにします。

もう一度電源を入れる



「4. 電源を入れ直そう」

電源を入れ直して、デスクトップ画面が表示されるか確認します。Windows の操作はデスクトップ画面から始めます。

その他の準備

「5. いろいろな使い方をするために」

インターネットやテレビを使うための準備など、パソコンのいろいろな使い方や、パソコン各部の名前やはたらきについて説明します。

パソコンが動かなくなった



パソコンを再セットアップする

「6. 再セットアップについて」

パソコンを購入時に近い状態に戻すことを、再セットアップといいます。パソコンの動作が不安定なときや、動かなくなったときに再セットアップを行います。

データのバックアップについて

「バックアップ」とは、パソコンの HDD から CD-R などのほかのメディアに、ファイルをコピー（複製）することを言います。パソコンに入っている電子メールやお客様が作成されたファイル、設定情報などは再セットアップを行うと消えてしまいます。また、万が一パソコンが故障したときに、データを復元できないこともあります。常日頃から、パソコンにある電子メールや作成ファイルなど、データはバックアップを取り、設定情報は書き留めておく習慣をつけましょう。

参照

コピーの方法について→『パソコン入門』の「3. ファイルを使おう」

バックアップの方法について

→『困ったときの Q&A』の 1 章の「データのバックアップ」

→『アプリケーションガイド』の「安心楽々引越しバック」でデータを移動する

もくじ

お使いになる前に

マニュアルの表記について

保証書について

使用許諾について.....1

パソコンを安全にお使いいただくために..... 2

パソコンを使いこなすまで 8

作業の流れをつかんでおこう..... 10

データのバックアップについて..... 11

もくじ..... 12

1. 同梱品を確認しよう 14

同梱品チェックリストで確認しよう14

パソコンの形名を確認しよう14

保証書を確認しよう.....16

2. 接続しよう 17

置き場所や姿勢について17

コンセントの位置を確認しよう.....18

リモコンに電池を入れる19

パソコンの置き方を決めよう20

パソコンを接続しよう22

3. 電源を入れよう..... 30

使用許諾契約に同意しよう32

4. 電源を入れ直そう 35

電源を切ろう35

もう一度、電源を入れよう37

画面のここから始めよう38

5. いろいろな使い方をするために 39

インターネットを始めたい方は.....39

テレビを見るための準備43

ほかの周辺機器を使うときは46

キーボードの角度を変えよう46

フロントドアを開けてみよう47

各部の名前とはたらきを知っておこう48

6. 再セットアップについて	58
作業の流れ	58
1 準備する.....	58
2 一括インストールを行う.....	61
3 アプリケーションをインストールする.....	66
4 電子マニュアルをインストールする	67
付録	68
ご使用上の注意事項.....	68

1. 同梱品を確認しよう

箱を開けたら、まず箱の中に入っている同梱品がすべてそろっていることを確認しましょう。

同梱品チェックリストで確認しよう

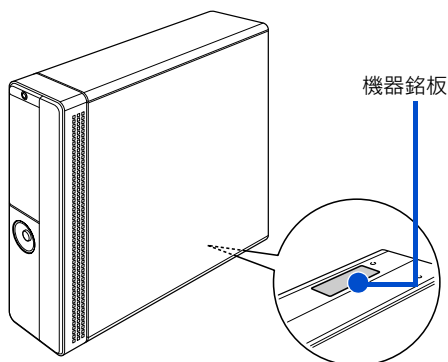
パソコンの箱の中にある、『同梱品チェックリスト』を使って、不足品がないか確認しましょう。万一不足があるときは、安心コールセンタにお問い合わせください。

パソコンの形名を確認しよう

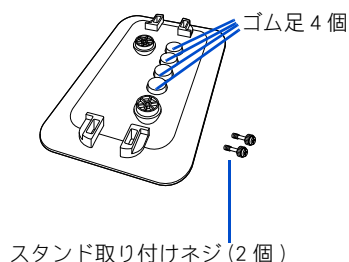
パソコンの形名と製造番号は、本体の下面に記載されています。

●パソコンの箱に同梱の機器類

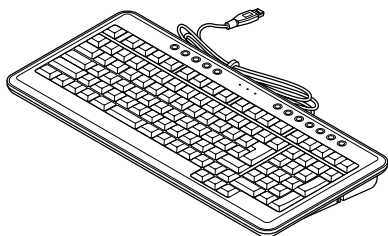
■パソコン



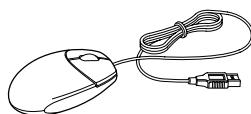
■パソコンスタンド



■キーボード



■マウス



ヒント

- ★ 機器銘板には、形名や製造番号を記載しています。
- ★ パソコンスタンドには、横置き用のゴム足が収納されています。また、スタンド取り付けネジは、あらかじめ実装されています。

重要

- ◎ スタンドを取り付けた状態で、パソコンを傾けないでください。スタンドが壊れることがあります。

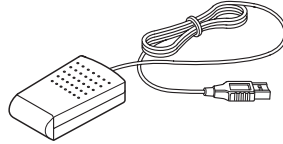
■パソコン用リモコン
(テレビチューナ内蔵モデルのみ)



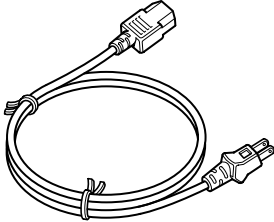
■リモコン用リチウムコイン電池
(CR2025)
(テレビチューナ内蔵モデルのみ)



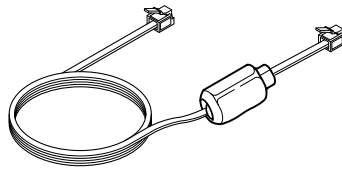
■パソコン用リモコンユニット
(テレビチューナ内蔵
液晶ディスプレイモデルのみ)



■電源コード (パソコン用)



■モデムケーブル

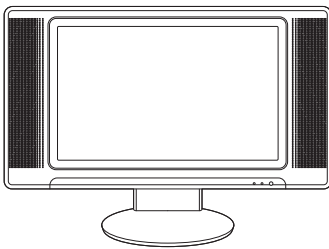


用語

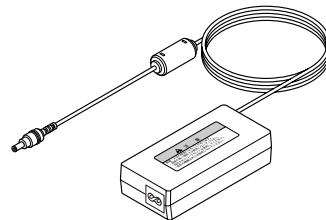
モデムケーブル
パソコンとご家庭のモジュラー
コンセントに接続するときに使
用します。

● 17 型ワイド液晶ディスプレイの箱に 同梱の機器類

■17 型ワイド液晶ディスプレイ



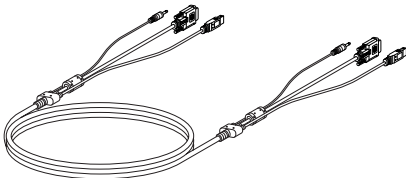
■ディスプレイ用 AC アダプター
(PA-1900)



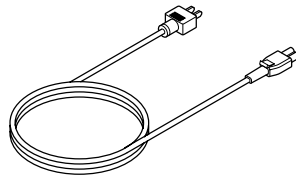
ヒント

★ 17 型ワイド液晶ディスプレイ
とセットのパソコンを本書では
「ワイド液晶ディスプレイ
モデル」と表記しています。

■インターフェースケーブル



■ディスプレイ電源コード



用語

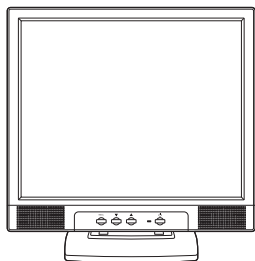
インターフェースケーブル
パソコンと液晶ディスプレイを
接続するときに使用します。

ヒント

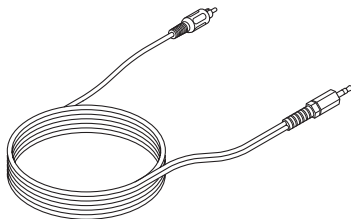
★ インターフェースケーブルは、
工場出荷時に、液晶ディス
プレイに接続された状態で、同
梱されています。

● 17 型液晶ディスプレイの箱に同梱の機器類

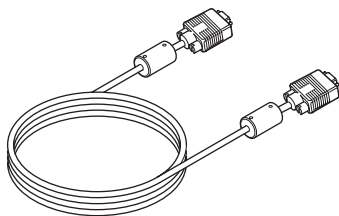
■ 17 型液晶ディスプレイ



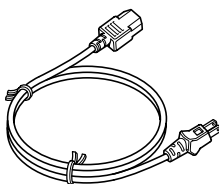
■ オーディオケーブル



■ D-sub ケーブル



■ ディスプレイ電源コード



ヒント

- ★ 17 型液晶ディスプレイモデルとセットのパソコンを本書では、「液晶ディスプレイ」と表記しています。

用語

D-sub ケーブル
パソコンと液晶ディスプレイを接続するときに使用します。

保証書を確認しよう

■ 保証書

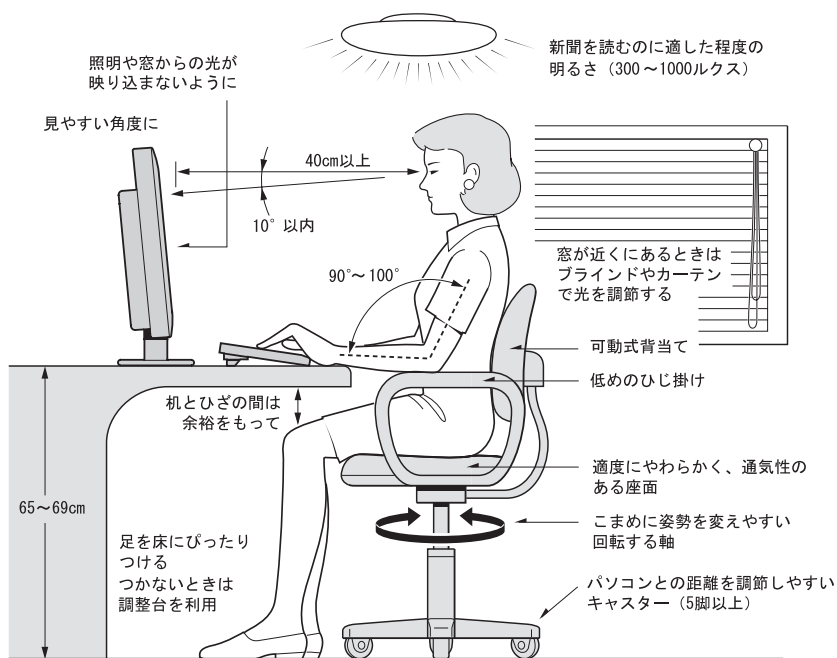
保証書は、パソコンの箱にはり付けてあります。大切に保管してください。パソコンの製造番号と保証書の番号が、同じであることを確認してください。万一違う場合は、すぐに安心コールセンタにお問い合わせください。

2. 接続しよう

パソコンの置き場所を決めてから、接続しましょう。

置き場所や姿勢について

パソコンを使う場所によっては、パソコンに思わぬトラブルを起こす可能性があります。パソコンを正しく使うために、パソコンを使うときに適した場所と姿勢について知っておきましょう。



参照：日本人間工学会 ノートパソコン利用の人間工学ガイドライン (1998年 労働科学研究所発行)

- ・ パソコンのディスプレイは、体の正面に設置し、見やすい角度に調整する。
- ・ ディスプレイの照度、明るさと周囲の照明を適度に調節し、ディスプレイの反射を抑える。
- ・ 明るさコントラストなどを見やすいように調整する。
- ・ キーボードやマウスを使うときは、手首とひじは水平になるような位置を保つ。
- ・ パソコンの作業時間は、1日に最大6時間を目安とし、1時間ごとに10~15分の休息をとる。
- ・ キーボードは裏側の足で使いやすい角度に調整する。
- ・ 周辺機器を接続しても余裕のある、十分な作業空間を確保する。
- ・ 不自然な姿勢を避け、ときどき姿勢を変える。

警告

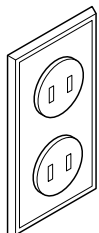
- ◎ 浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。

注意

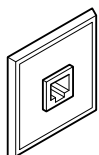
- ◎ 傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがをするおそれがあります。

コンセントの位置を確認しよう

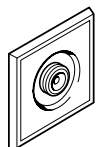
次のコンセント類が、パソコンに設置する場所にあるか、ご確認ください。
コンセント類とパソコンを接続するケーブルが届く位置にパソコンの位置を決めてください。これは代表的な例です。



電源コンセント 2 個
プリンターなど、周辺機器を接続する場合は、さらにその個数分が必要です。



モジュラーコンセント 1 個
モデムを使ってインターネットに接続するときが必要です。



アンテナ端子 1 個
テレビを見るときに必要です。

参照

TV アンテナへの接続方法
→ 「5. いろいろな使い方をするために」 「アンテナ線と接続する」

参照

モデムケーブルの接続方法
→ 「5. いろいろな使い方をするために」 「モデムを使う」

リモコンに電池を入れる

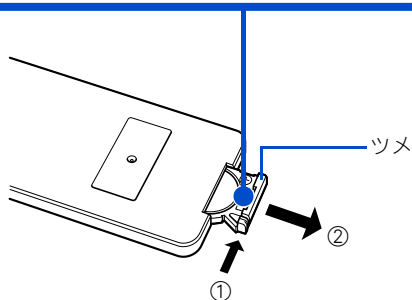
(テレビチューナ内蔵モデルのみ)

同梱のリモコンに電池を入れます。

1

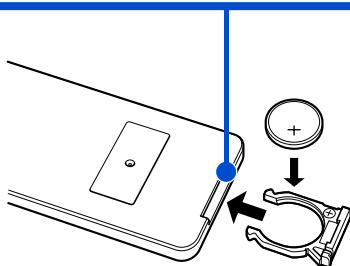
電池ホルダーのツメを①の方向へ押しながら②の方向へ引いて、取り外す

リモコンを裏返した状態



2

付属のリチウムコイン電池を⊕⊖を確かめて入れ、電池ホルダーをカチッというまでリモコンに差し込む



⚠ 警告

- ◎ 長期間使用しないときは、電池を取り外してください。取り外さないと、液漏れによりやけどをしたり、リモコンが故障するおそれがあります。
- ◎ 電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ◎ 電池をリモコンに入れる場合は、極性表示 プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、リモコンの表示どおり正しく入れてください。間違えると、電池の破裂、液漏れにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ◎ 指定されていない電池は使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定電池：CR2025 (日立マクセル製)

重要

- ◎ 動作可能領域は、発信部をリモコン受光窓に向けて約5m以内、左右±15°、約3m以内です。

ヒント

- ★ 動作可能領域でリモコンを使っても、うまく操作できないときは、電池残量がわずかになっている可能性があります。電池を交換してみてください。

参照

パソコン用リモコンの使い方について→『始めよう！TV エンターテインメント』5章の「リモコンを使って操作する」

2

接続しよう

パソコンの置き方を決めよう

パソコンは、縦置きにしたり横置きにして使うことができます。パソコンを置く場所に合わせて置き方を決めましょう。

縦置き

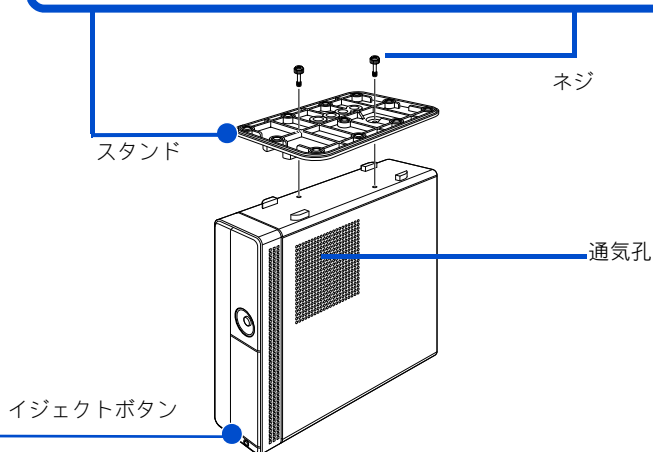
パソコンを縦置きにするときは、スタンドを取り付けてください。スタンドは次のように取り付けます。

1

イジェクトボタンが下になるように、パソコンを縦に置く

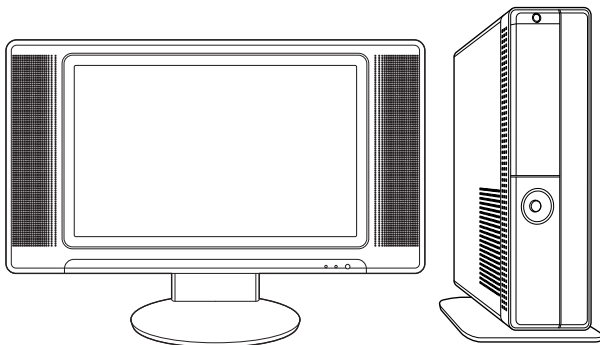
2

スタンドの刻印をパソコンの前面方向に合わせ、ネジで固定する



3

スタンドを下にして、パソコンを置く



注意

- ◎ スタンドを取り付けた状態で、パソコンを傾けないでください。スタンドが壊れることがあります。

警告

- ◎ 付属のパソコンスタンドを正しい位置に必ず取り付けてください。取り付けないと、通気孔がふさがれ、発煙、発火や故障の原因になります。また、転倒し、けがや故障の原因になります。

重要

- ◎ 8cm CD-ROM などを使用する場合は、パソコンを横置きでご使用ください。

横置き

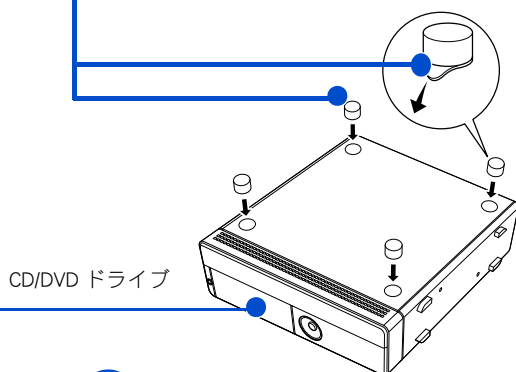
パソコンを横置きする場合は、ゴム足 4 個を取り付けます。ゴム足は付属のパコンスタンドに収納されています。

1

CD/DVD ドライブが下になるように、パソコンを横に置く

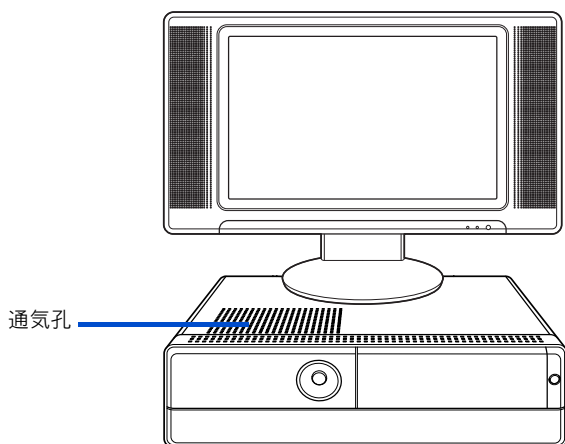
2

ゴム足 4 個のシールをとり、パソコンの四隅にはり付ける



3

ゴム足を下にして、パソコンを置き、ディスプレイを上に乗せる



警告

- ◎ イラストを参考にして、付属のゴム足をパソコンの四隅に必ず取り付けてください。取り付けないと、通気孔がふさがれ、発煙、発火や故障の原因になります。また、転倒し、けがや故障の原因になります。
- ◎ ディスプレイを設置する場合、天面の通気孔部分に置かないでください。通気孔がふさがれると内部の温度が上昇し、発煙、発火や故障の原因になります。また、パソコン本体の上に液晶ディスプレイ以外を設置しないでください。耐重量オーバーや設置物による発熱などにより、破損や誤動作、故障の原因になります。

重要

- ◎ ゴム足をはり付けるパソコンの面に、ゴミ、油などの汚れがある場合はふきとってください。

2

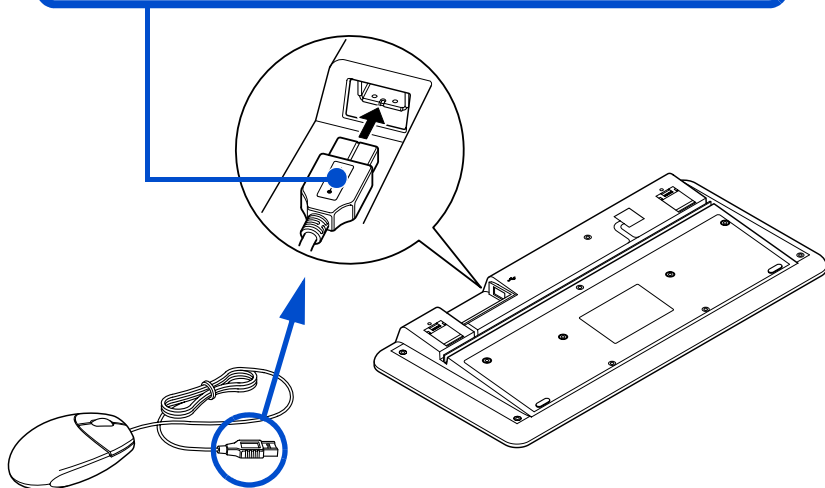
接続しよう

パソコンを接続しよう

さっそく接続してみましょう。

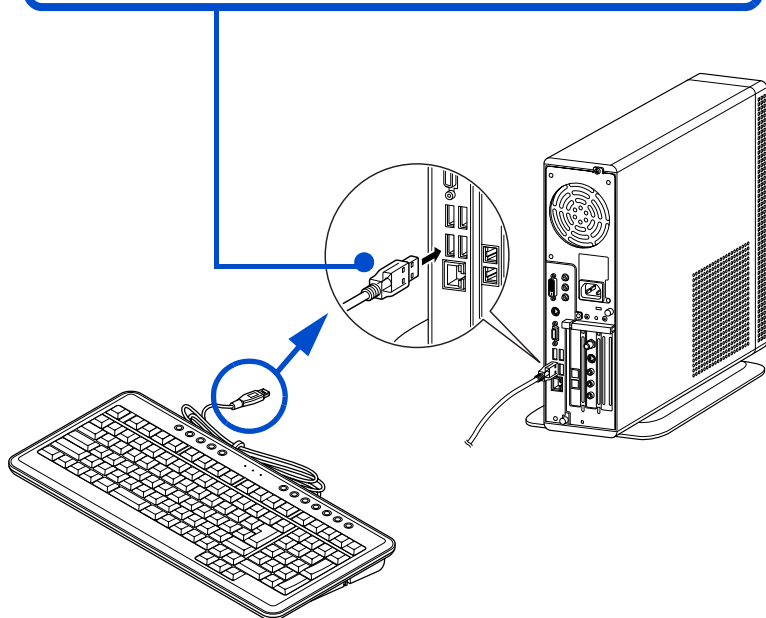
1

キーボードを裏返し、マウスケーブルを USB コネクタに差し込む



2

キーボードケーブルを背面の USB コネクタに差し込む



③からディスプレイタイプ別に操作が分かります。

重要

- ◎ 各コネクタは、差し込む向きが決まっています。パソコン側のコネクタの形と、ケーブル側のコネクタの形を正しく合わせて確実に差し込んでください。
- ◎ ピンのあるものは、ピンを曲げたり折らないようにしてください。
- ◎ キーボードに付いている USB コネクタはマウス専用です。マウス以外は接続しないでください。

参照

各部の名称について→「5. いろいろな使い方をするために」 「各部の名前とはたらきを知っておこう」

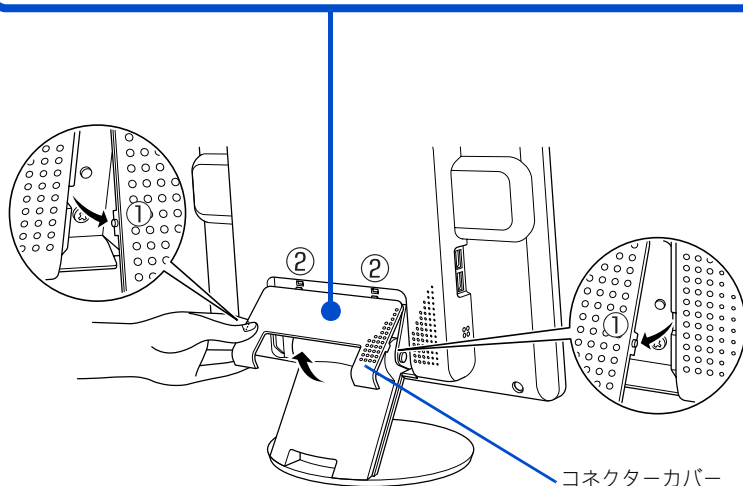
ヒント

- ★ 4 つある USB コネクタのどこに接続してもかまいません。また、正面の USB コネクタに接続してもかまいません。

■ワイド液晶モデルの場合(③~⑬)

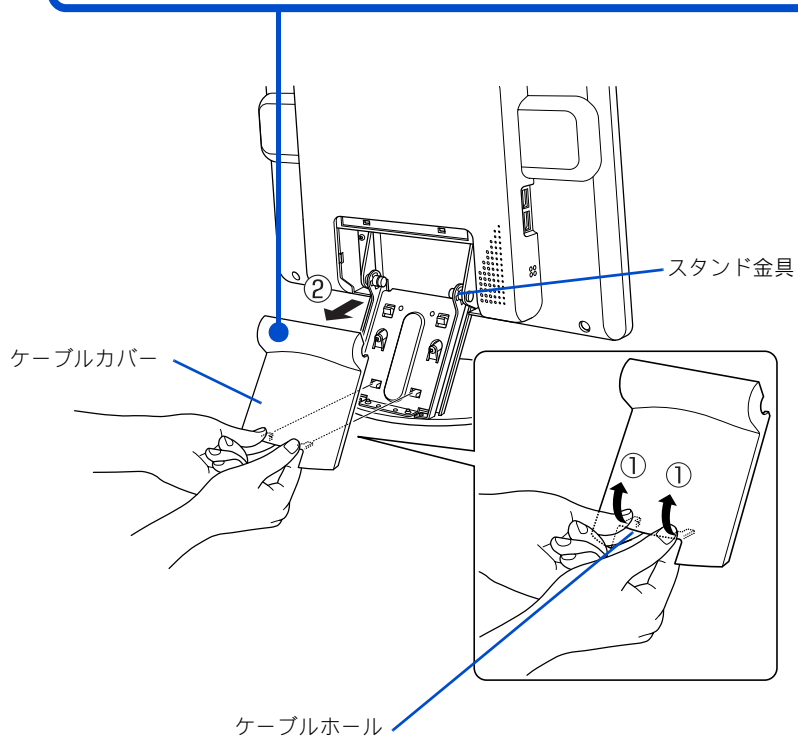
3

コネクターカバーの左右のフック(①)を矢印の方向に引き上げて外し、上側のフック(②)を外して取り外す



4

ケーブルホール内にあるツメ(①)を左右の人差し指で持ち上げて外し、上側の2ヶ所のフック(②)をスタンド金具から外して、ケーブルカバーを取り外す



5

ディスプレイコネクタの一方を、デジタル液晶ディスプレイコネクタ (DVI) に接続する

6

オーディオコネクタの一方を、スピーカーコネクタに差し込む

8

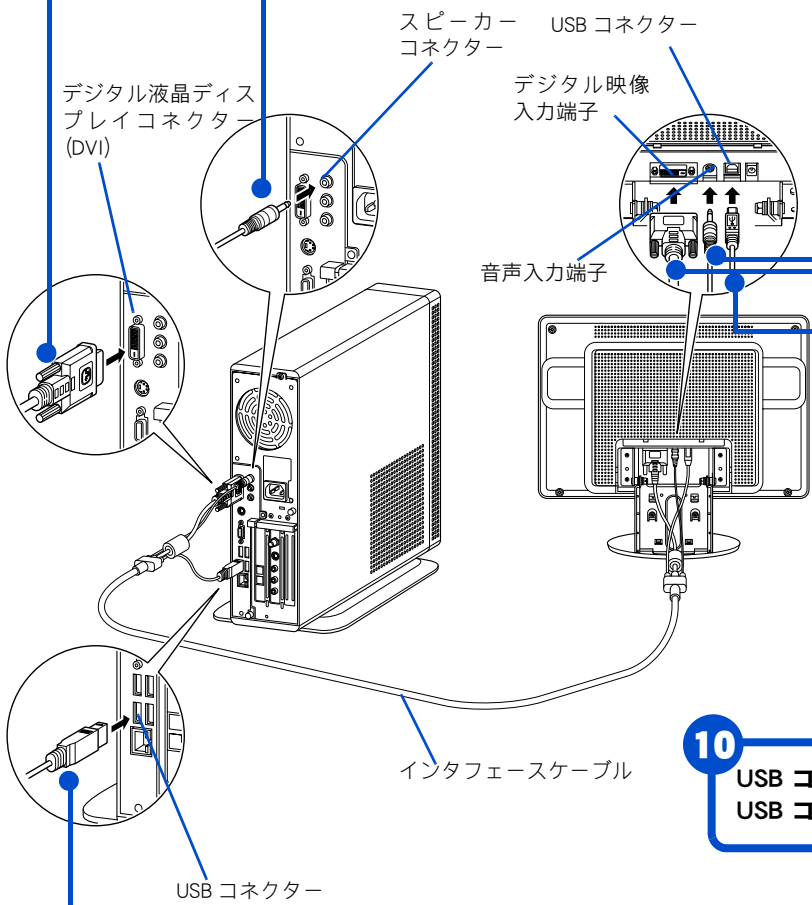
オーディオコネクタのもう一方を、音声入力端子に差し込む

9

ディスプレイコネクタのもう一方を、デジタル映像入力端子に接続する

10

USB コネクタのもう一方を、USB コネクタに接続する



7

USB コネクタの一方を、パソコン背面の USB コネクタに接続する

重要

◎ リモコンやメール着信機能を使うには、インターフェースケーブルを USB コネクタに正しく接続してください。

11

電源コードを、パソコンの電源コネクタに差し込む

電源コネクタ

12

ACアダプターのプラグを、電源入力端子に差し込む

電源入力端子

ACアダプター

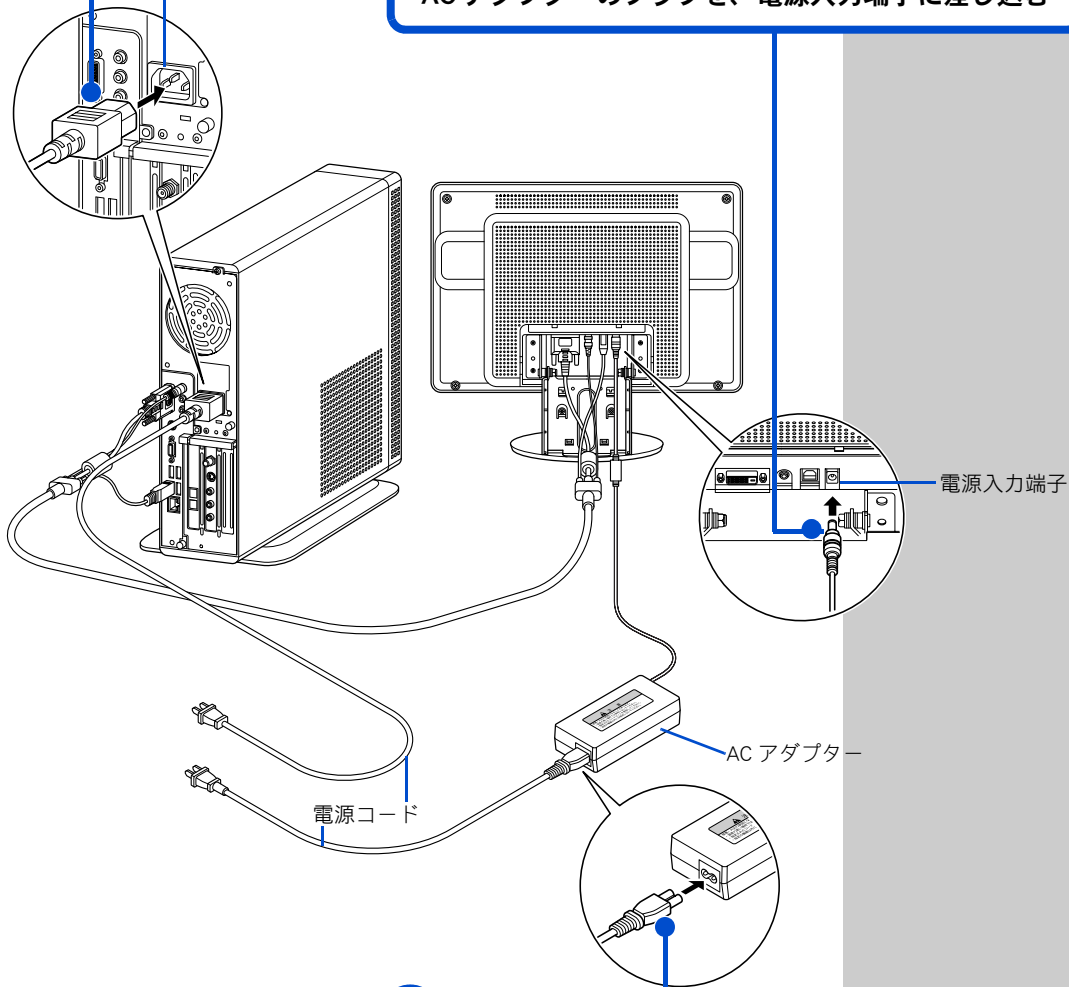
電源コード

13

電源コードのコネクターを、
ACアダプターに差し込む

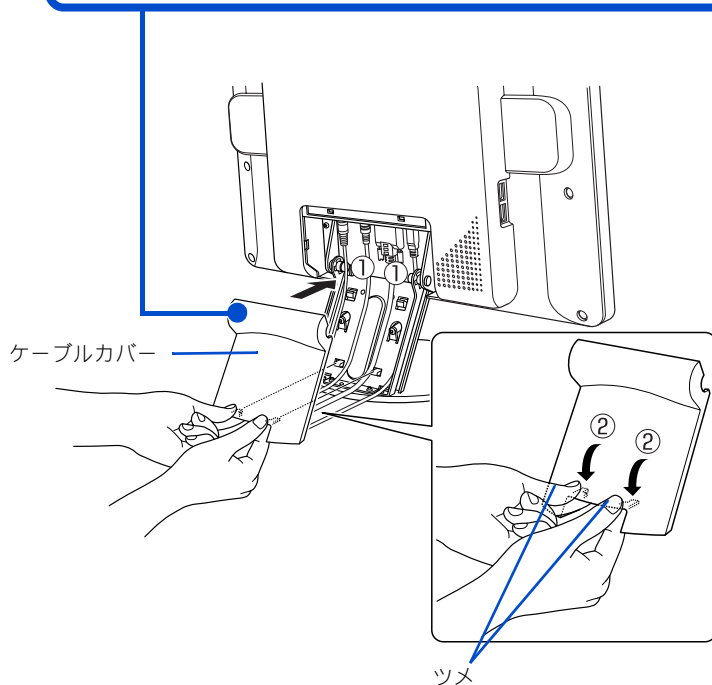
⚠ 警告

- ◎ 同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが加熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。



14

ケーブルカバー上側の2ヶ所のフック(①)をスタンド金具にひっかけ、矢印の方向に押し下げてケーブルホール内の2ヶ所のツメ(②)をはめ込み、ケーブルカバーを取り付ける

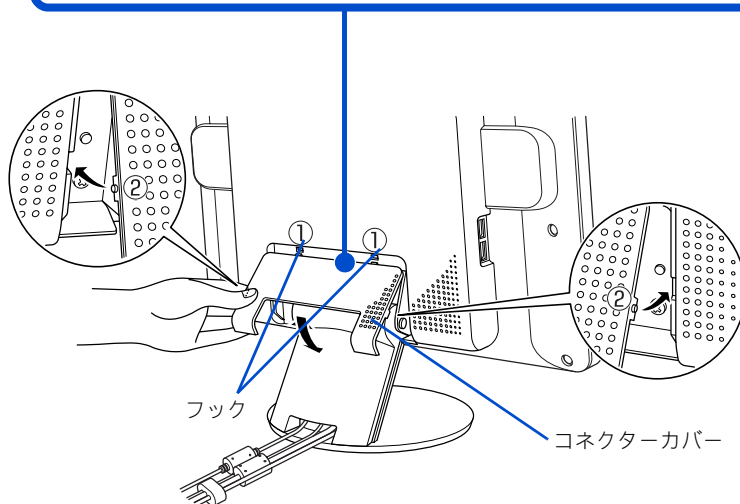


ヒント

★ ケーブルカバーを取り付けるときは、各ケーブルをケーブルカバーとスタンドの間にはさまないように注意してください。

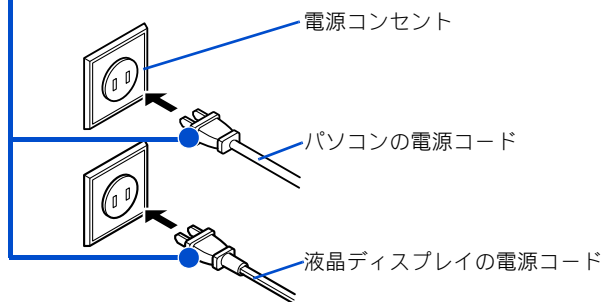
15

コネクタカバー上部のフック(①)をディスプレイ背面にはめ込み、左右のフック(②)をディスプレイにはめ込み、固定する



16

パソコンと液晶ディスプレイの電源コードのプラグを、コンセントに差し込む



⚠ 警告

- ◎ 同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが加熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。

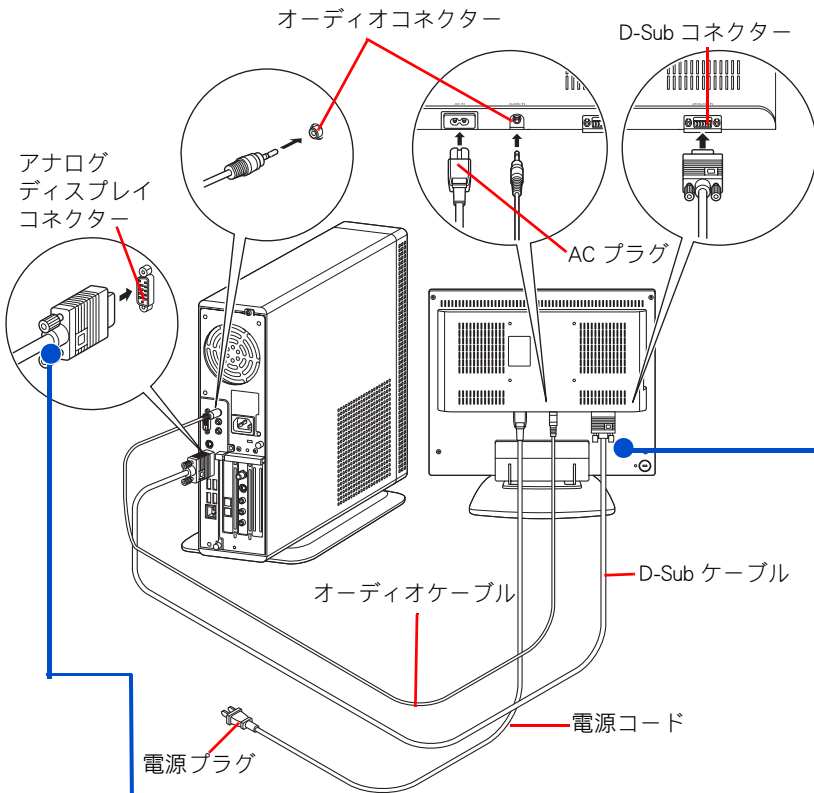
2

接続しよう

■液晶ディスプレイモデルの場合(③~⑥)

3

D-Sub ケーブルの接続は、上下の向きを確かめ、奥までしっかり差し込む
このとき、コネクタ内のピンを曲げないように注意して差し込む



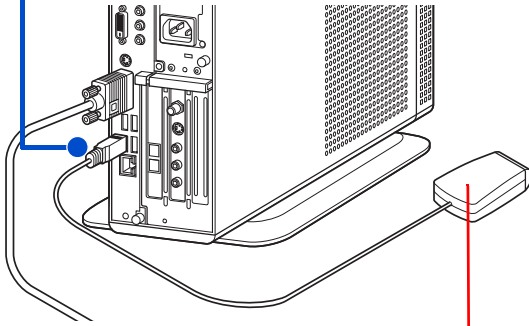
4

D-Sub コネクタのツマミを右に回し、コネクタを固定する

重要

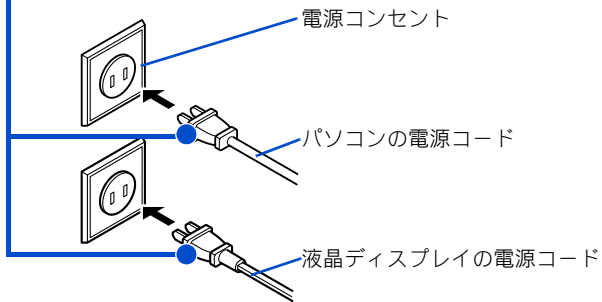
- ◎ 画面が表示されている状態で D-Sub コネクタを抜かないでください。再度、D-Sub コネクタを差し込んでも画面が表示されないことがあります。この場合は、パソコンを立ち上げ直す必要があります。
- ◎ D-Sub ケーブルは、パソコンとディスプレイに直接接続し、延長ケーブルや各種アダプターは使用しないでください。使用すると画面が表示されないことがあります。
- ◎ 各ケーブルやコードは、必ず付属のものをご使用ください。

5 テレビチューナ内蔵モデルの場合は、リモコン受信ユニットを接続する



リモコン受信ユニット
(テレビチューナ内蔵モデルのみ)

6 パソコンと液晶ディスプレイの電源コードのプラグを、コンセントに差し込む



ヒント

- ★ リモコン受信ユニットは、テレビチューナ内蔵モデルの場合接続します。

警告

- ◎ 同じコンセントに多数の機器を接続しないでください。コードやコンセントが加熱し、火災の原因になります。また、電力の使用量がオーバーとなり、ブレーカーが落ちてほかの機器にも影響を及ぼします。

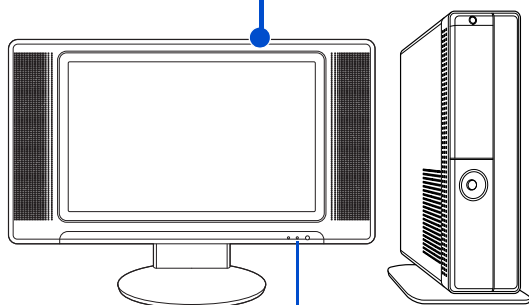
3. 電源を入れよう

ここまででパソコンの電源を入れる準備ができました。

次に、電源を入れて Windows を使えるようにするまでの操作を説明します。

1 液晶ディスプレイの電源スイッチを押す

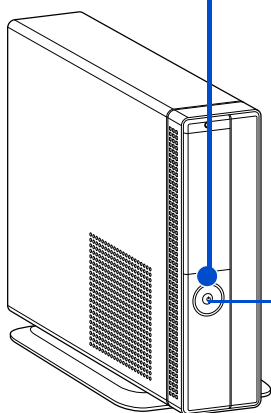
- ▼ 液晶ディスプレイの電源が入り、電源ランプがオレンジ色に点灯します。



電源ランプ

2 パソコン前面の電源スイッチを押す

- ▼ 液晶ディスプレイの電源ランプとパソコンのインフォメーションリングが緑色に変わり、しばらく待つと [Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。



インフォメーションリング

ヒント

- ★ Windows を使えるようにするまでの操作を Windows のセットアップといいます。

ヒント

- ★ パソコンの電源が切れている場合や、正しく接続されていない場合は、「No Sync」など無信号状態であることを示すメッセージが表示されます。接続が正しいことを確認し、パソコンの電源を入れてください。

重要

- ◎ スタンドを取り付けた状態で、パソコンを傾けないでください。スタンドが壊れることがあります。

ヒント

- ★ インフォメーションリングは、リングの発色でパソコンの状態をあらわします。

参照

パソコンのインフォメーションリングについて→「5. いろいろな使い方をするために」「各部の名前はたらきを知っておこう」

3

次の画面が表示されるまで待つ

▼ [Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。



ヒント

★ Windows 立ち上げ時は、ひんぱんに画面の切り替えが行われるため、画面が乱れることがあります。

重要

- ◎ 液晶ディスプレイモデルの場合は、ディスプレイ側での「自動調整」を実行してください。横線や文字のにじみを防ぎます。また、「自動調整」を実行されてもにじみが気になる場合は、更に「フェーズ」「クロック」の調整をしてください。

参照

「自動調節」「フェーズ」「クロック」について→同梱の液晶ディスプレイ付属のマニュアル「ディスプレイ」「操作方法」「OSD 機能」



3

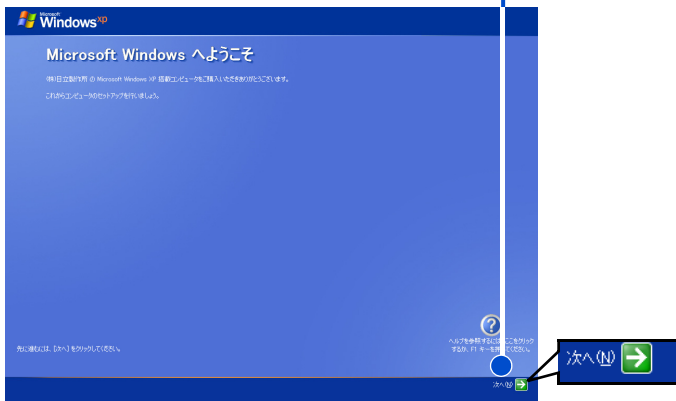
電源を入れよう

使用許諾契約に同意しよう

はじめてパソコンの電源を入れたときは、Windows の使用許諾契約に同意して、Windows を使えるようにする必要があります。この操作は、はじめて電源を入れるときだけに必要です。次に電源を入れるときは必要ありません。

1

マウスを動かし、画面上に表示されている  を移動させて [次へ]  に重ねる




用語

使用許諾契約

ここでは、あらかじめパソコンに入っている Windows を使うための契約のことをいいます。

ヒント

★ 画面上に表示されている  を、「マウスポインター」と呼びます。

2

マウスの左ボタンを 1 回押す

▼ [使用許諾契約] 画面が表示されます。

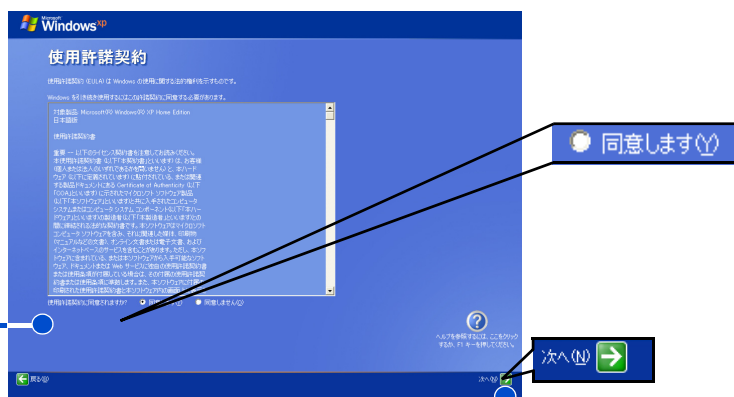
マウスのボタンを 1 回押すことを、「クリック」といいます。



3

マウスを移動させて [同意します] に重ね、クリック

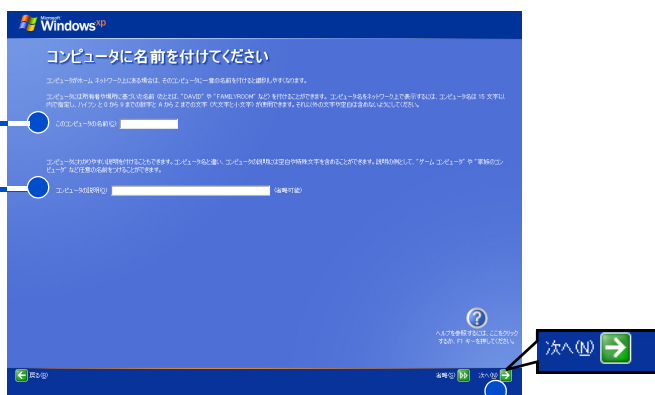
▼ [同意します] が、[同意します] になります。



4

マウスを移動させて [次へ] に重ね、クリック

▼ [コンピュータに名前を付けてください] 画面が表示されます。



6

マウスを移動させて [次へ] に重ね、クリック

▼ [このコンピュータを使うユーザを指定してください] 画面が表示されます。

ヒント

- ★ 操作を間違えたときは、[戻る] にマウスを重ね、マウスの左ボタンをクリックします。一つ手前の画面に戻ります。

重要

- ◎ 使用許諾契約は必ずお読みください。

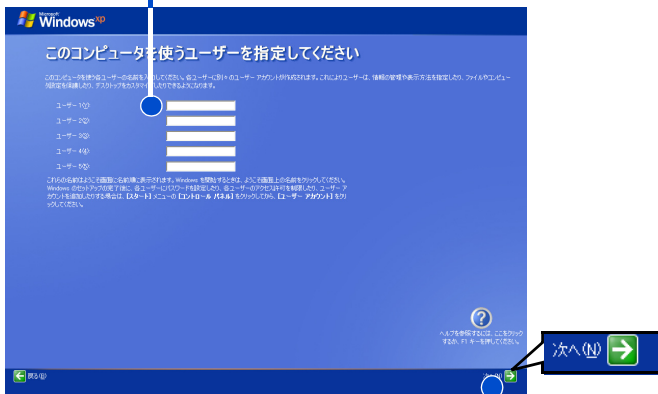
ヒント

- ★ 入力できる文字には制限があります。画面の指示に従ってください。
- ★ [このコンピュータの名前] と [コンピュータの説明] はあとで変更できます。変更の方法については『パソコン入門』「4. コントロールパネルを使う」をご参照ください。

7

[ユーザー 1]を入力する

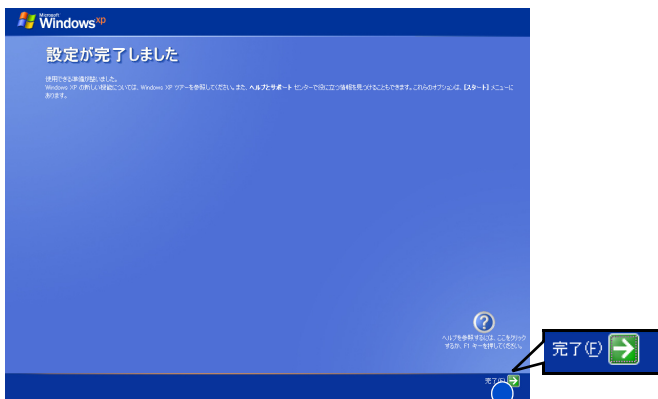
入力内容はあとで変更できるので、[ユーザー 1]は自分のニックネームを付けるつもりで入力します。



8

マウスを移動させて[次へ]に重ね、クリック

▼ [設定が完了しました]画面が表示されます。



9

マウスを移動させて[完了]に重ね、クリック

▼ Windows のデスクトップ画面が表示されます。

2 回目以降は、電源を入れるとパソコンが使えます。[使用許諾契約]画面や[コンピュータに名前を付けてください]画面などは表示されません。

ヒント

★ [ユーザー 1]に入力した名前は、あとで変更できます。変更の方法については『パソコン入門』[4. コントロールパネルを使う]をご参照ください。

★ キーボードの入力操作に慣れていない方は『パソコン入門』[5. 日本語を入力しよう]をご参照ください。

日本語を入力するには

日本語を入力する方法は2つあります。使いやすい方法を選んで入力してください。

ローマ字入力

キーの左上のアルファベットを使って、ローマ字読みでひらがなを入力します。

HI T A C H I

と入力すると自動的に「ひたち」となります。

かな入力

かな入力したい場合は、キーボードの[Alt]キーを押しながら[カタカナ ひらがな]キーを押すと、かな入力ができます。キー右下、または右上のひらがなを使って入力します。

ひ た ち

と入力すると「ひたち」となります。

漢字変換

入力したひらがなを漢字に変換するには、キーボードの[スペース]キーを押します。違う漢字が表示されたときは、もう一度[スペース]キーを押して、漢字の候補一覧の中から該当する漢字を選びます。「ひたち」→ [スペース] → 常陸 → [スペース] → 日立

選んだ漢字を確定するには、[Enter]キーを押します。

ひらがなのままでよいときは、[スペース]キーを押さずに、そのまま[Enter]キーを押して確定します。

4. 電源を入れ直そう

Windows の使用許諾契約などが終わったら、いったん電源を切ります。電源を切る操作はとても大切です。次に説明する方法で、電源を切ってください。そのあと、もう一度電源を入れて、デスクトップ画面が表示されることを確認します。

電源を切ろう

電源は、この操作で切ってください。



1 スタート にマウスを重ね、クリック

▼ スタートメニューが表示されます。

2 終了オプション(O) にマウスを重ね、クリック

▼ [コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。



ヒント

- ★ 電源スイッチを押すと、手順 1～3 の操作と同じように電源が正しく切れます。
- ★ パソコン用リモコンの電源ボタンを押すと、手順 1～2 の操作と同じように、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

重要

- ◎ 電源スイッチは、4 秒以上押し続けしないでください。Windows が強制終了されます。この場合、異常終了とみなされ、次回立ち上げ時にチェックプログラムが働くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がります。



3

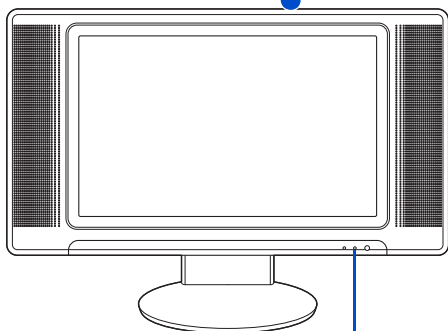
① にマウスを重ね、クリック

- ▼ 画面が暗くなり、しばらくすると電源が切れ、パソコンのインフォメーションリングがオレンジ色の点灯に変わります。

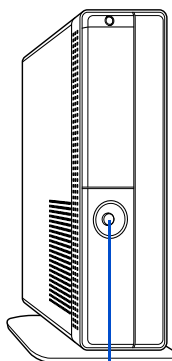
4

液晶ディスプレイの電源スイッチを押す

- ▼ 液晶ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。



電源ランプ



インフォメーションリング

重要

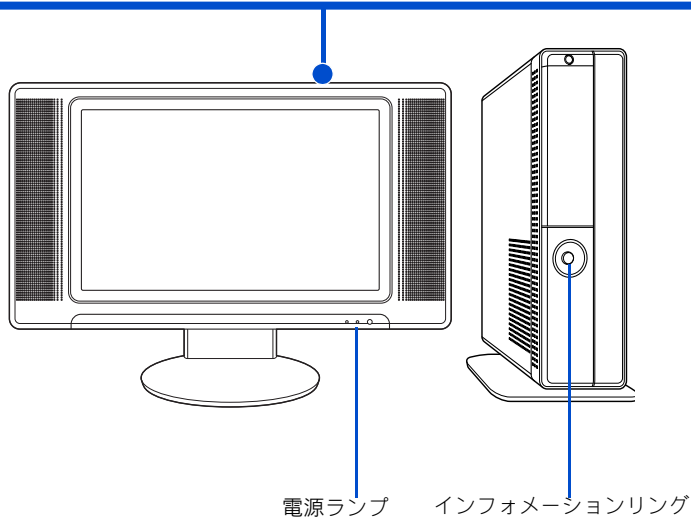
- ◎ 一度電源を切り、再度電源を入れるときは、20 秒以上の間隔をあけてください。

もう一度、電源を入れよう

1

液晶ディスプレイの電源スイッチを押す

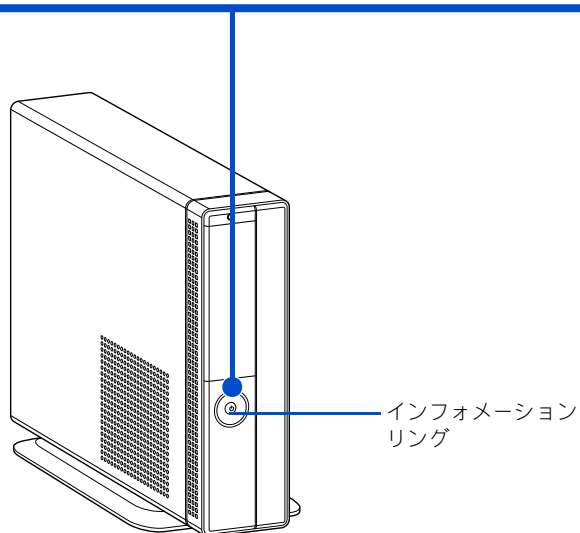
- ▼ 液晶ディスプレイの電源が入り、電源ランプがオレンジ色に点灯します。



2

パソコン前面の電源スイッチを押す

- ▼ 液晶ディスプレイとパソコンのインフォメーションリングが緑色に変わり、デスクトップ画面が表示されます。



ヒント

- ★ Windows 立ち上げ時は、ひんぱんに画面の切り替えが行われるため、画面が乱れることがあります。

画面のここから始めよう

Windows は、デスクトップ画面から操作を始めます。ここでは、デスクトップ画面に表示されている、基本的な部分について説明します。



[スタート]ボタン

[スタート] ボタンは、いろいろな操作を始めるときに使います。パソコンの電源を切るときも、[スタート] ボタンから操作を始めます。

タスクバー

タスクバーには、現在使っているアプリケーションの名前などが表示されます。

用語

デスクトップ
作業するための机のようなもの。作業をすばやく行えるいろいろなものがあります。

ヒント

★ ご購入時の設定では、電源が入っている状態で15分以上放置すると節電状態になり、画面の表示が消えます。キーボードやマウスを操作したり、電源スイッチを押すと復帰します。

参照

節電状態について→電子マニュアル『パソコン応用』2章の「消費電力を節約する」の「節電機能とは」

重要

◎ 電源スイッチは、4秒以上押し続けしないでください。

用語

アプリケーション
パソコンでワープロ作業、表計算、パソコン通信などを実行するプログラムの総称。

デスクトップ画面の詳しい使い方については、『パソコン入門』「2. ウィンドウとデスクトップを使おう」をご参照ください。

ご購入時の状態では、インストールされていないアプリケーションがあります。インストール方法については、電子マニュアル『パソコン応用』4章の「アプリケーションのインストール」をご参照ください。

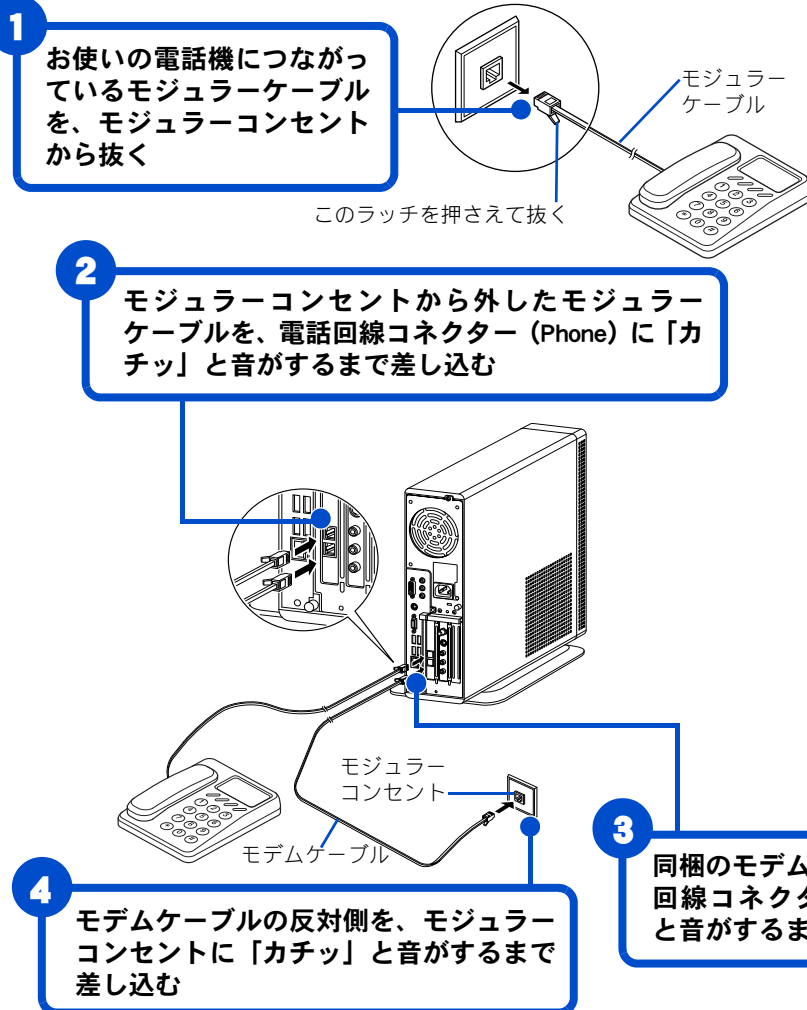
5. いろいろな使い方をするために

ここでは、インターネットやテレビを使うための準備など、パソコンのいろいろな使い方や、パソコン各部の名前やはたらきについて説明しています。

インターネットを始めたい方は

モデムを使う

インターネットを始めるためには、モデムケーブルを接続する必要があります。



ヒント

★ 接続する前に、お使いになっている電話機の種類をご確認ください。お使いになっている電話機がホームテレフォンやビジネスフォン(内線)の場合、接続しても正常にインターネットを始めることができません。この場合は、NTTにご相談ください。

ヒント

★ モジュラーコンセントの形状がイラストのようにない場合は、モジュラーコンセントを変更する必要があります。詳しくはNTTにご相談ください。

重要

◎ モジュラーケーブルには脱落防止のラッチが付いています。モジュラーケーブルを取り外すときは、ラッチを押さえないでモジュラーコンセントから引き抜いてください。ラッチを押さえずに無理に引き抜くと、モジュラーケーブルが断線したり、モジュラーコンセントを破損するなどのおそれがあります。

警告

◎ 雷が鳴っているときは、パソコンの使用、電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

◎ モデムケーブルは、同梱のものを使って2線式のアナログ回線に接続してください。それ以外に接続すると、故障するおそれがあります。

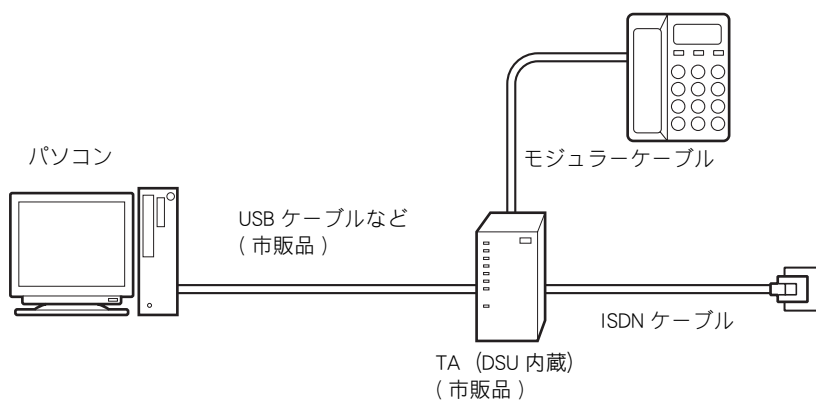
インターネットを始めるためには、ほかにも必要な手続きが残っています。詳しいインターネットの始め方については、電子マニュアル『始めよう！インターネット』をご参照ください。

モデム以外の通信機器を使う

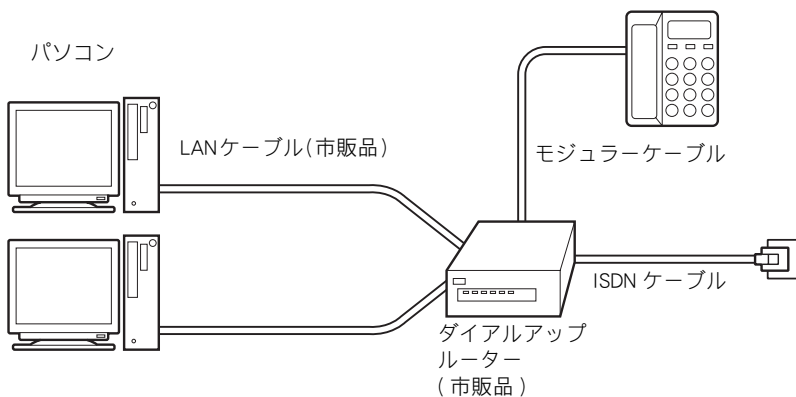
ISDN 回線や ADSL 回線を使ってインターネットをすることもできます。ここでは、モデム以外の通信機器を使ってインターネットをするときの接続例を紹介します。

■ISDN を使う

ISDN 回線を使ってインターネットを楽しむことができます。ISDN 回線を使うと、データの送受信が高速になり、インターネットをより快適に楽しむことができます。さらに、1本の電話回線で2本の伝送路を確保できるので、インターネットをしながら電話やFAXを使うことができます。パソコンが1台のときはターミナルアダプター（以下、TA）を使います。



複数のパソコンで ISDN 回線を同時に使う場合は、TA の代わりにダイアルアップルーターを使います。



ヒント

★ ダイアルアップルーターを使う場合や、ADSL、CATV インターネットを利用する場合は、LAN の設定が必要な場合があります。詳しくは、プロバイダーやCATV局から送付された資料をご参照ください。LAN の一般的な設定は電子マニュアル『始めよう！インターネット』でも紹介しています。

参照

LAN の設定→電子マニュアル『始めよう！インターネット』1章の「LAN でインターネットに接続する」

用語

ターミナル・アダプター (TA)
ISDN 回線を利用するための通信装置。

用語

DSU
ISDN 回線に接続するための終端装置。

参照

- ・ISDN について→ NTT(電話番号116)にお問い合わせください。
- ・TA と各ケーブルの購入について→パソコン周辺機器の販売店でお買い求めください。
- ・接続について→TAのマニュアルをご覧ください。または、ご購入先にお問い合わせください。

参照

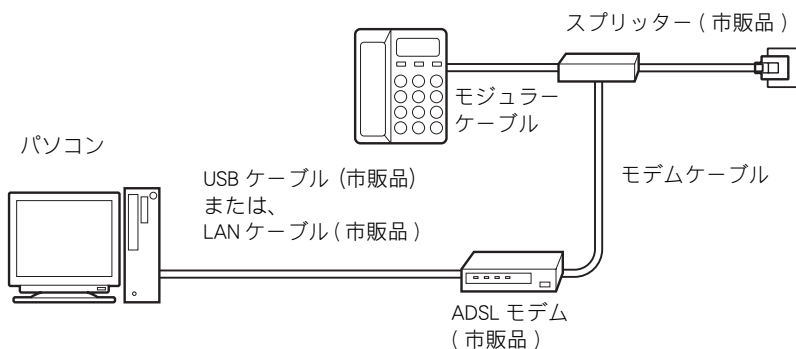
- ・ダイアルアップルーターと各ケーブルの購入について→パソコン周辺機器の販売店でお買い求めください。
- ・接続について→ダイアルアップルーターのマニュアルをご覧ください。または、ご購入先にお問い合わせください。

重要

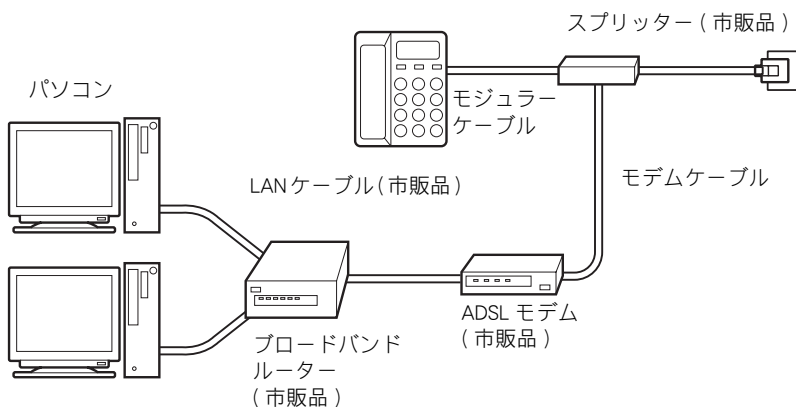
- ◎ LAN コネクターに、間違えてモデムケーブルなどを接続しないでください。接続する前にマークなどでご確認ください。

■ADSL を使う

インターネットをより快適に楽しむために、ADSL 回線を使える地域もあります。ADSL 回線では、ISDN 回線と比べてデータの送受信が高速になります。24 時間インターネットに接続したままでも、電話代は基本料金だけですみます。契約内容により、インターネットをしながら電話や FAX も使うことができます。ADSL 回線では ADSL モデムを使います。



複数のパソコンで ADSL 回線を同時に使う場合は、ADSL モデムとブロードバンドルーターを使います。



用語

ADSL

従来の電話回線を使い音声電話に使用しない高い周波数を利用することで、高速なデータ転送を可能にしたデジタル技術 (xDSL) の 1 つ。インターネットへの接続には専用の ADSL モデムを使用します。

重要

- ◎ ADSL と ADSL モデムについて → NTT(電話番号 116) または各 ADSL 回線業者にお問い合わせください。
- ◎ 各ケーブルの購入について → パソコン周辺機器の販売店で買い求めください。

参照

接続について → ADSL モデムのマニュアルをご覧ください。または、ご購入先にお問い合わせください。

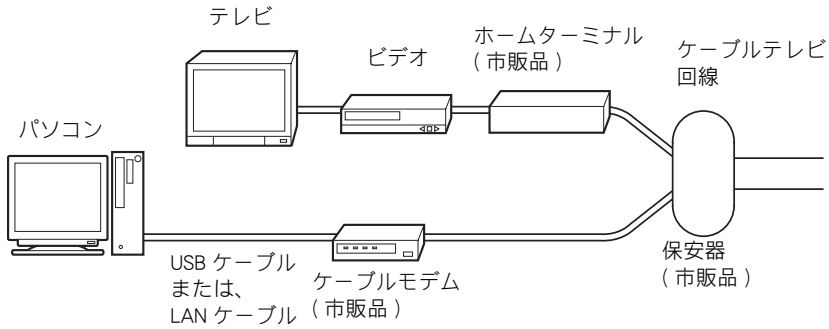
参照

- ・ブロードバンドルーターと各ケーブルの購入について → パソコン周辺機器の販売店で買い求めください。
- ・接続について → ブロードバンドルーターのマニュアルをご覧ください。または、ご購入先にお問い合わせください。

■CATVを使う

電話回線の代わりにケーブルテレビの回線を使ってインターネットすることができる地域もあります。このことを、ケーブルテレビインターネットなどといいます。

ケーブルテレビインターネットの場合、電話回線よりデータの送受信が高速になります。インターネットをより快適に楽しむことができます。さらに、ケーブルテレビの回線を使うので、24時間インターネットに接続したままでも電話代はかかりません。接続料金だけの支払いになります。



重要

- ◎ ケーブルテレビインターネットとケーブルモデムについて→地元のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
- ◎ 各ケーブルの購入について→パソコン周辺機器の販売店にてお買い求めください。
- ◎ 接続について→ケーブルモデムのマニュアルをご覧ください。または、ご契約のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

テレビを見るための準備

(テレビチューナ内蔵モデルのみ)

パソコン内蔵のテレビチューナでテレビを見るには、アンテナ線と接続します。

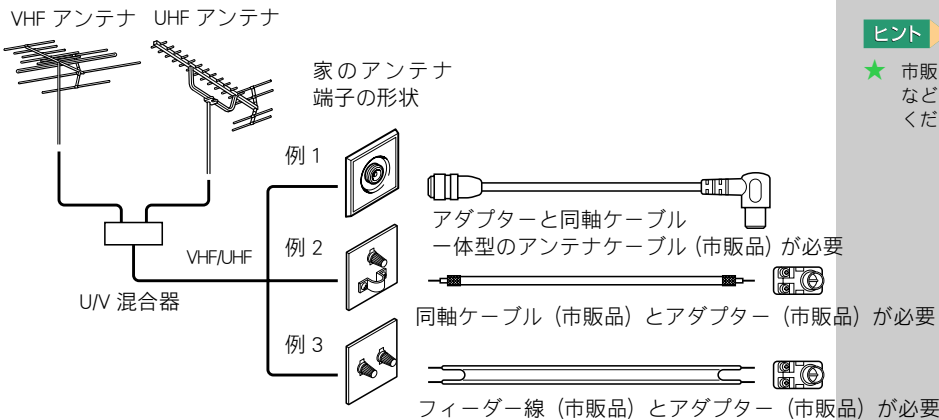
アンテナ線と接続する

パソコンとアンテナ線を接続するには、次の方法があります。パソコンを置く部屋やほかの家電製品の使い方などを決めて、接続しましょう。

お住まいの設備によりアンテナ端子の形状が異なります。まず、端子の形状をご確認ください。
アンテナ端子の形状により、フィーダー線やアンテナアダプターなど必要になるものが異なります。

VHF/UHF 混合の場合

■アンテナ端子が1つのとき



⚠警告

- ◎ 雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

参照

機器によって端子は異なります。それぞれのマニュアルをご参照ください。

ヒント

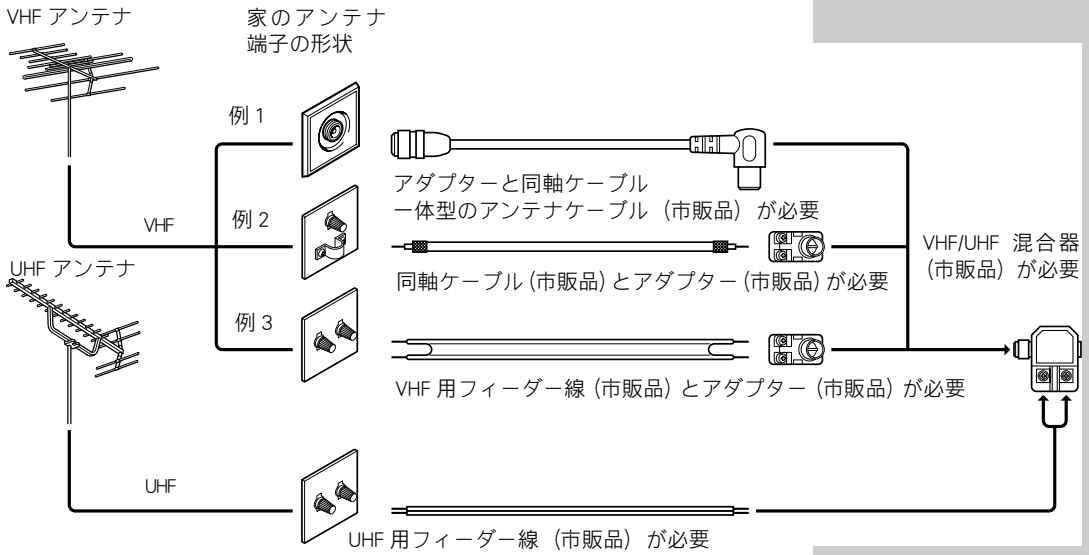
- ★ 市販のアダプター、ケーブルなどは、販売店でお買い求めください。

重要

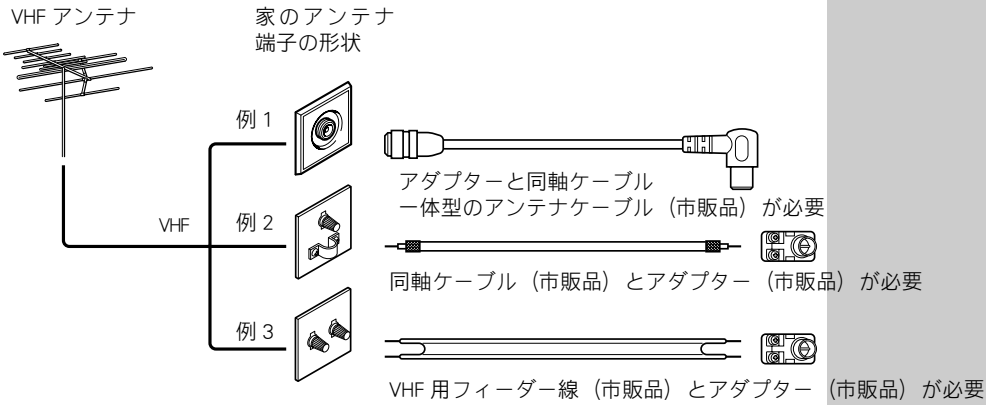
- ◎ このパソコンは VHF、UHF アンテナのみに対応しております。それ以外のアンテナには対応しておりませんので、専用チューナー (市販品) から映像信号を取り込んでください。

VHF/UHF 別々の場合

■アンテナ端子が2つのとき



VHF の場合



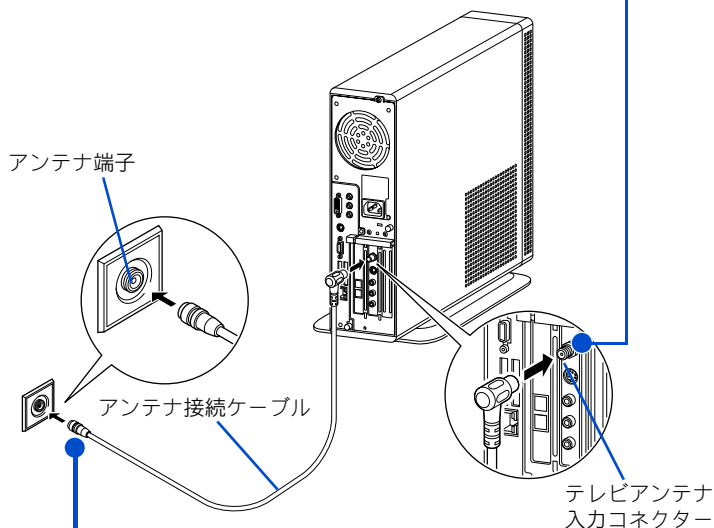
以降、「UHF/VHF 混合の場合」の例1の場合で説明します。

パソコンにアンテナを接続する

パソコン内蔵のテレビチューナーでテレビを見る場合の接続です。録画やタイムシフト機能を使うには、次の接続を行ってください。

1

アンテナ接続ケーブルを、テレビアンテナ入力コネクタに差し込む



2

アンテナ接続ケーブルのもう一方を、アンテナ端子に差し込む

テレビを見るためには、アプリケーションの設定が必要になります。詳しいテレビの見方については、『始めよう！TVエンターテインメント』をご参照ください。

用語

タイムシフト
現在放映中の番組を一時停止させたり、巻き戻したりする機能です。

重要

- ◎ パソコンと周辺機器の電源を切ってから接続してください。

警告

- ◎ 雷が鳴っているときは、パソコンの使用、アンテナ線の接続および電話線への接続作業を中止してください。誘導雷で発生する高電圧によって感電するおそれがあります。

5

いろいろな使い方をするために

ほかの周辺機器を使うときは

周辺機器の接続は、電子マニュアル『パソコン応用』3章の『パソコンを拡張する』をご参照ください。次のような接続や取り付けなどが行えます。必要に応じて、あらかじめ印刷してください。

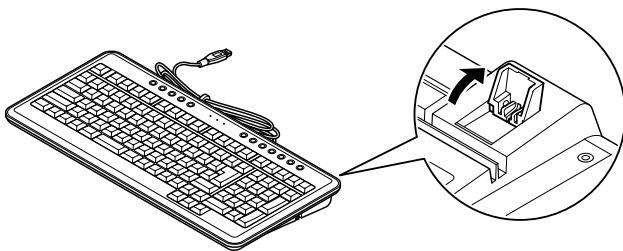
電子マニュアルは、デスクトップ画面の [電子マニュアル] アイコンをダブルクリックします。

設定などの詳しい説明は、周辺機器のマニュアルをご参照ください。

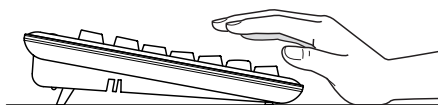
- ・ USB 機器を接続する
- ・ i.LINK 機器を接続する
- ・ LAN を接続する
- ・ PC カードを使う
- ・ SD メモリカードを使う
- ・ メモリースティックを使う
- ・ ディスプレイを複数接続する
- ・ ヘッドホン、マイクを接続する
- ・ 光デジタルオーディオ機器を接続する
- ・ パソコンカバーの取り外し / 取り付け
- ・ メモリーボードを取り付ける
- ・ 拡張ボードを取り付ける
- ・ その他の周辺機器を接続する

キーボードの角度を変えよう

キーボードの裏側には、キーボードの角度を変えるための足が付いています。この足を引き出すと、キーボードを置いたときの傾きを大きくすることができます。



足を出さない場合



足を出した場合

重要

- ◎ 周辺機器を接続する前に、Windows のインストールを完了してください。周辺機器を接続してから Windows のインストールを行うと、正しくインストールできない場合があります。

参照

Windows のセットアップについて
→詳しくは、「電源を入れよう」
30 ページ

重要

- ◎ 接続する時は、パソコンと周辺機器の電源をあらかじめ切ってください。

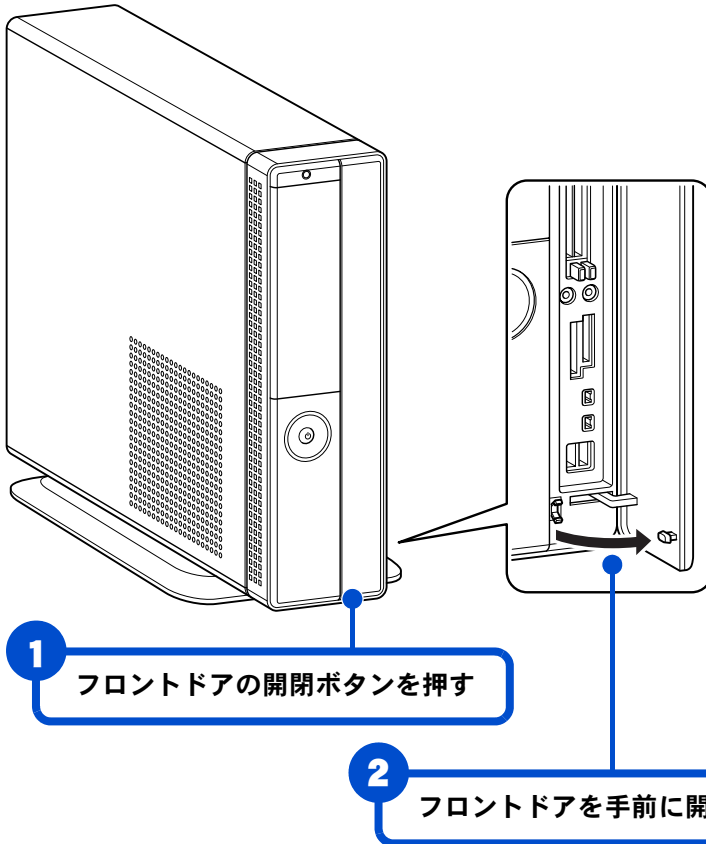
ヒント

★ 次のプリンタードライバーはプレインストールされています。プリンターを接続すれば、使用できます。一括セットアップしたときには、これらのドライバーはインストールされません。プリンターに付属のドライバーなどをインストールしてください。

- ・ Lexmark (PriusJet)
- ・ EPSON (CL-760, PM-740DU, PM-G700, PM-D750, PM-G800, PX-G900, PX-V600)
- ・ Canon (PIXUS320i, PIXUS 455i, PIXUS560i, PIXUS 860i, PIXUS990i)

フロントドアを開けてみよう

パソコンのフロントドアを開けると、パソコン前面には、いろいろなコネクターがあります。



重要

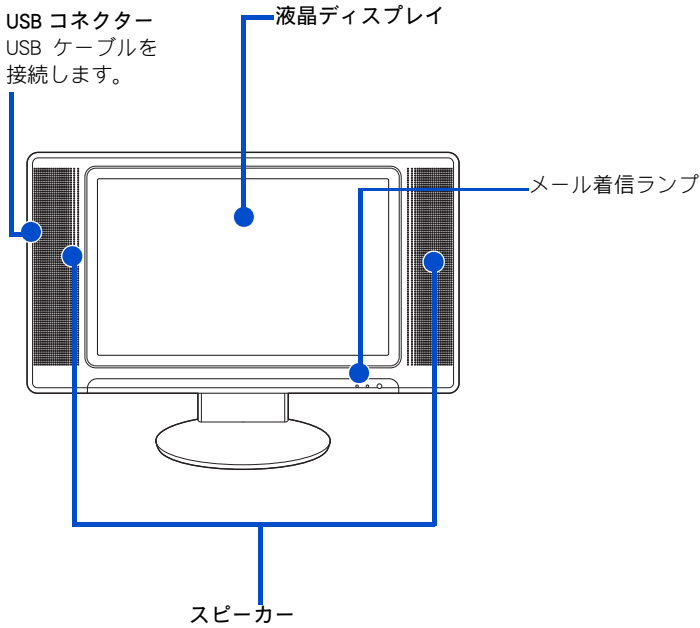
- ◎ フロントドアに、無理に力を加えないでください。フロントドアが破損する場合があります。

各部の名前とはたらきを知っておこう

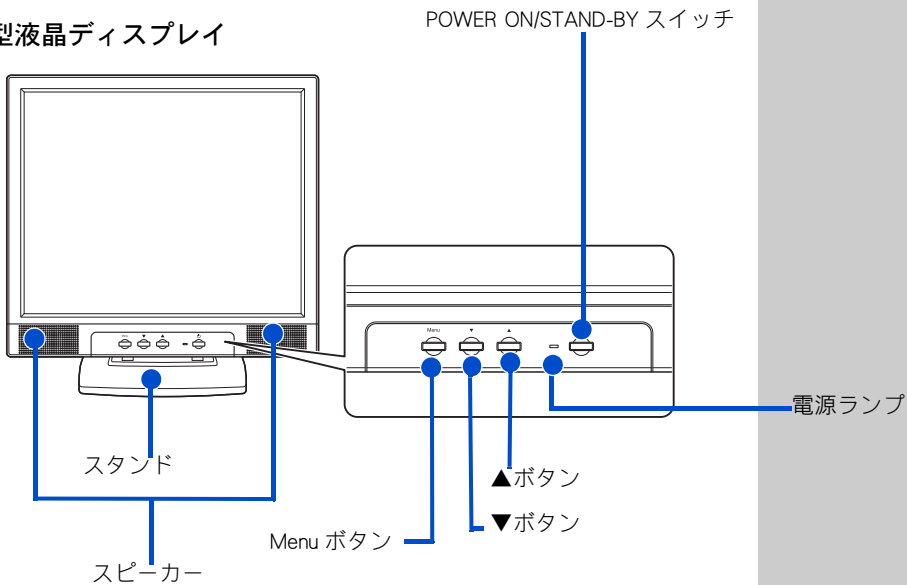
液晶ディスプレイ

■ 17 型ワイド液晶ディスプレイ

USB コネクター
USB ケーブルを
接続します。



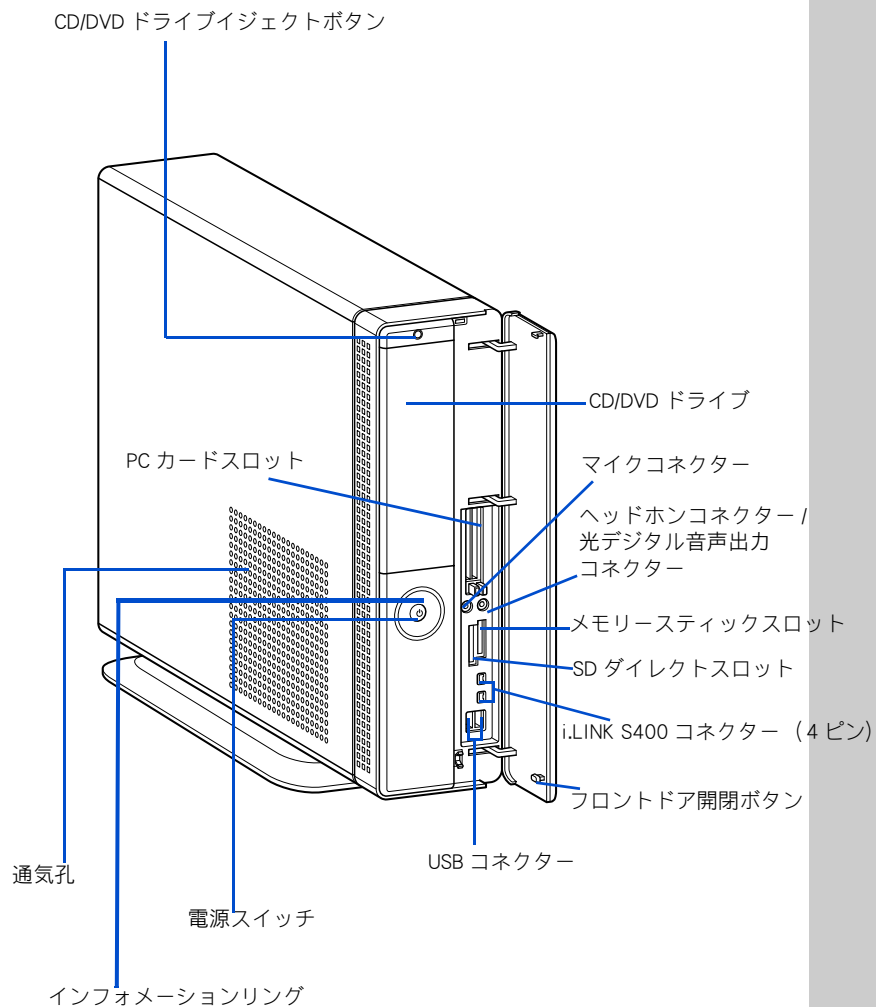
■ 17 型液晶ディスプレイ



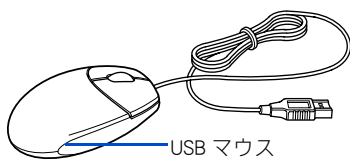
ヒント

★ 液晶ディスプレイの各部の名前については、『液晶ディスプレイ取扱説明書』をご参照ください。

パソコン正面



■付属品



5

いろいろな使い方をするために

■インフォメーションリング

リングの発色でパソコンの動作状態を確認できます。

パソコンの状態	インフォメーションリングの状態	備考
PowerOFF（電源切）時 または、パソコン休止時	オレンジ色に点灯	パソコンの電源が切れている (ACコンセントから電源は通電している)
起動中	オレンジと緑の光が上下に 移動	パソコンを立ち上げている
HDD、CD/DVDドライブ アクセス時	青と緑の光が回転	HDDがデータの読み書きを している
PowerON（電源入）時	緑色に点灯	パソコンが立ち上がっている
スタンバイ時	白色に点滅	節電機能が働いている
AC OFF時	消灯	電源コードが外されている

■CD/DVDドライブイジェクトボタン

CD/DVDドライブを使うときにこのボタンを押します。

■CD/DVDドライブ

CD-ROMやDVD-ROM、DVD-RAM、DVD-R、DVD-RWを読み込むことができます。また、専用のアプリケーションやディスク（DVD-RAM、DVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RW）を使うと、データを書き込むことができます。

■マイクコネクター

マイクを使うときは、このコネクターに接続します。

■ヘッドホンコネクター / 光デジタル音声出力コネクター

ヘッドホンで音声を聞くとときは、このコネクターにヘッドホンなどを接続します。

MDやドルビーサラウンドシステムなどで音声を聞くとときは、MDやドルビーサラウンドシステムなどの光デジタルオーディオ機器を接続します。

ヘッドホンを接続すると、スピーカーからの音声は消音されます。

■メモリースティックスロット

メモリースティックを差し込みます。データを読み書きすることができます。MagicGateには対応していません。

■SDダイレクトスロット

SDメモリーカードを差し込みます。データを読み書きすることができます。

ヒント

- ★ インフォメーションリングの点灯する色を変更することができます。

参照

インフォメーションリングの設定について→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「インフォメーションリングを使う」

参照

使用できるディスクの種類→電子マニュアル『パソコン応用』6章の「ドライブの仕様」

ヒント

- ★ マイクコネクターにマイクを接続して録音する場合は、コンデンサマイクをご使用ください。ダイナミックマイクを接続すると録音レベルが低くなります。

参照

マイクの接続について→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「ヘッドホン、マイクを接続する」

参照

光デジタルオーディオ機器の接続について→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「光デジタルオーディオ機器を接続する」

■ i.LINK S400 コネクタ (4 ピン)

i.LINK 機器を使うときは、このコネクタに接続します。コネクタは 2 個あります。

■ フロントドア開閉ボタン

フロントドアを開けるときに押します。

■ USB コネクタ

ユニバーサルシリアルバス (USB) に対応した周辺機器を使うときは、このコネクタに接続します。コネクタは 2 個あります。

■ 電源スイッチ

電源を入れます。

■ 通気孔

パソコン内部の温度上昇を防ぎます。

■ PC カードスロット

SCSI カードなどの PC カードが差し込めます。TYPE II が 2 つまたは、TYPE III が 1 つ入ります。

■ マウス

画面に表示される矢印マーク (マウスポインター) を動かしたり、機能を実行したりします。

参照

i.LINK について→電子マニュアル『パソコン応用』3 章の「i.LINK 機器を接続する」

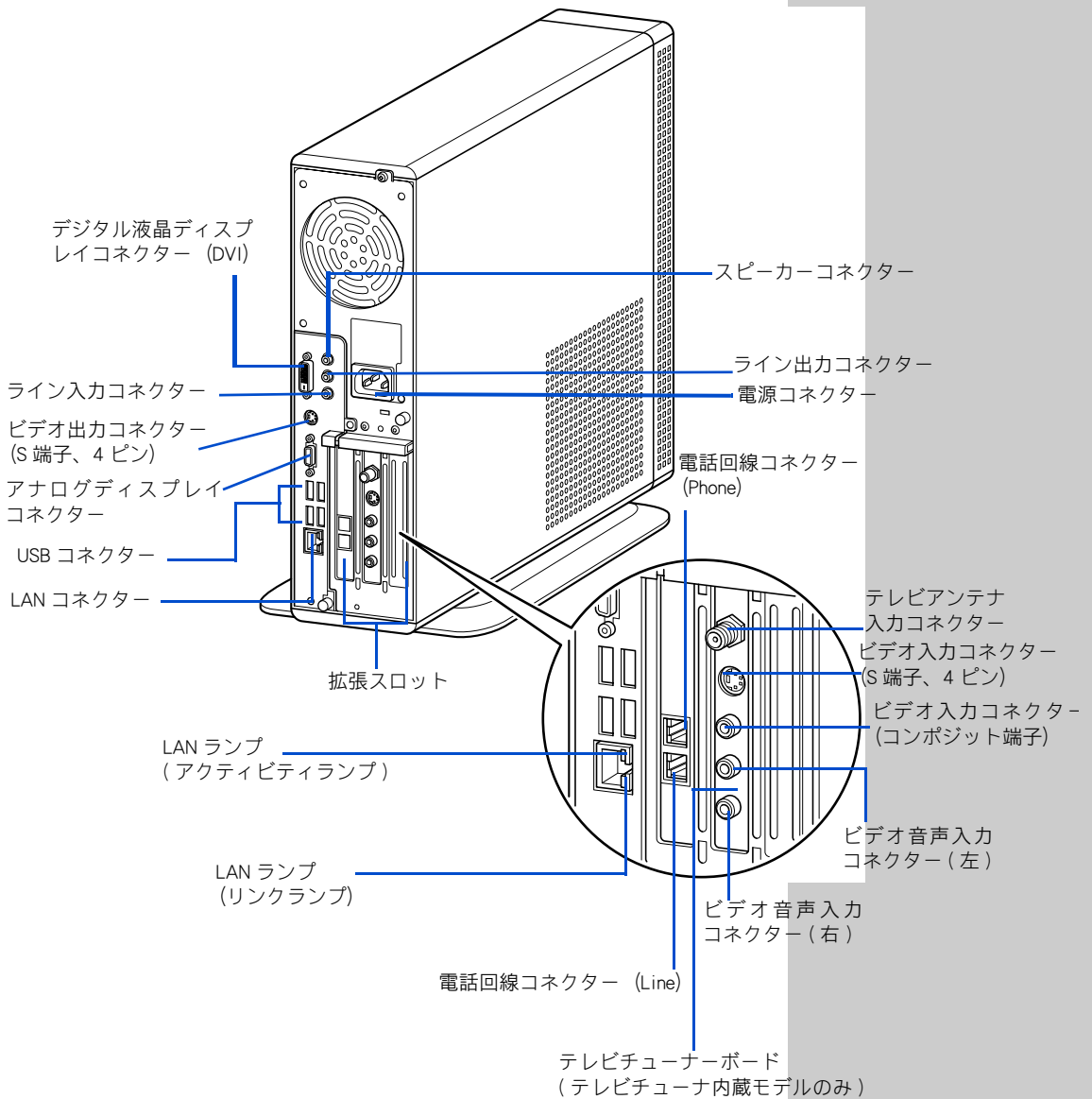
参照

USB 機器の接続について→電子マニュアル『パソコン応用』3 章の「USB 機器を接続する」

5

いろいろな使い方をするために

パソコン背面



■スピーカーコネクタ

スピーカーに接続して再生している音を聞くと、このコネクタに接続します。外部スピーカーを接続する場合は、ディスプレイに接続しているケーブルを取り外す必要があります。

■ライン出力コネクタ

パソコンで再生している音を聞くと、このコネクタに接続します。

■電源コネクタ

電源コードを接続します。

■電話回線コネクタ (Phone)

電話機を使うときは、モジュラーケーブルを接続します。

■電話回線コネクタ (Line)

電話回線でインターネットなどを利用するときは、モデムケーブルを接続します。

■LAN ランプ

ランプ	点灯状態	通信の状態
リンクランプ (緑)	点灯	100Mbps モードでリンクが確立されている。
	消灯	100Mbps モードでリンクが確立されていない。
アクティビティランプ (オレンジ)	点灯	データの送受信を行っている。
	消灯	データの送受信を行っていない。

■拡張スロット

拡張ボードが増設できます。スロットは3つあり、スロット1、スロット2はPCI規格です。使用できるPCIボードのサイズは、幅107mm、奥行150mmです。テレビチューナー内蔵モデルは、スロット2にテレビチューナーボードが取り付け済みです。スロット3はFAXモデム専用スロットです。

■LAN コネクタ

ネットワークに接続するときは、LAN 接続ケーブルを接続します。使用するには、設定が必要です。

■USB コネクタ

ユニバーサルシリアルバス (USB) に対応した周辺機器を使うときは、このコネクタに接続します。コネクタは4個あります。

■アナログディスプレイコネクタ

17型液晶ディスプレイを接続します。

■ビデオ出力コネクタ (S端子、4ピン)

映像をテレビに表示するときは、S映像ケーブルを接続します。

■ライン入力コネクタ

外部オーディオ機器で再生している音をパソコンに取り込むときは、このコネクタに接続します。

参照

モデムケーブルの接続について→
「5.いろいろな使い方をするために」
のインターネットを始めたい
方は

参照

ネットワークの設定と接続について→
電子マニュアル『パソコン応
用』3章の「LANを接続する」

■デジタル液晶ディスプレイコネクタ (DVI)

17型ワイド液晶ディスプレイを接続します。

テレビチューナ内蔵モデルのみ

■テレビアンテナ入力コネクタ

テレビのアンテナ線を接続するときは、アンテナ接続ケーブルを接続します。

■ビデオ入力コネクタ (S端子、4ピン)

テレビの映像を、S映像信号でパソコンに取り込むときに、S映像ケーブルを接続します。

■ビデオ入力コネクタ (コンポジット端子)

テレビの映像をコンポジット映像信号でパソコンに取り込むときは、コンポジット映像ケーブルを接続します。

■ビデオ音声入力コネクタ (右, 左)

テレビの音声信号をパソコンに取り込むときに、音声信号ケーブルを接続します。

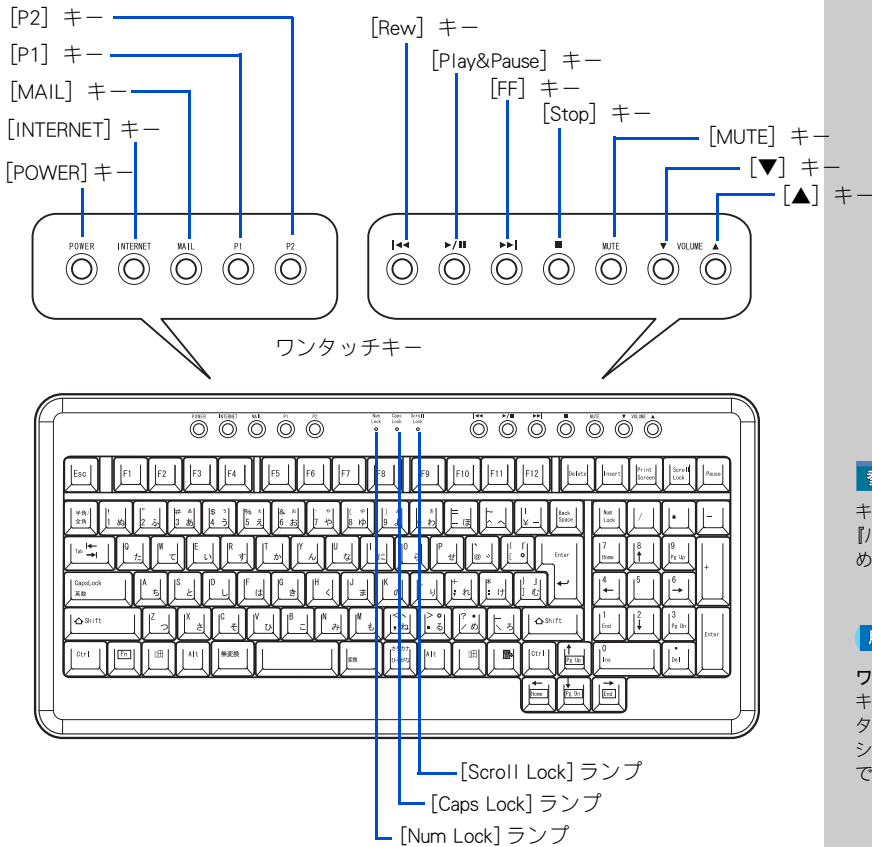
■テレビチューナーボード

TV機能を使うための拡張ボードです。

ヒント

- ★ テレビチューナーボードはテレビチューナ内蔵モデルにのみ取り付けられています。

キーボード



■ [POWER] キー

ワンタッチキーの1つです。Windows が終了します。

■ [INTERNET] キー

ワンタッチキーの1つです。インターネットに接続してホームページを見
るためのアプリケーション「Internet Explorer (インターネットエクスプロー
ラ)」を立ち上げます。

■ [MAIL] キー

ワンタッチキーの1つです。インターネットメールを送受信するためのア
プリケーション「Microsoft® Office Outlook® 2003」を立ち上げます。

参照

キーボードの使い方について→
『パソコン入門』「1. パソコンを始
めよう」の「キーボードを使う」

用語

ワンタッチキー
キーボタンを押すだけで、イン
ターネットやメール、アプリケー
ションの立ち上げができるキー
です。

ヒント

★ インターネットに接続した
り、メールを使用するには、
あらかじめ設定が必要です。

参照

[MAIL] キーの設定について→電
子マニュアル『パソコン応用』1
章の「ワンタッチキーを設定する」

重要

- ◎ 再セットアップを行うと、
[MAIL] キーは「Outlook
Express」に、「P1」キーは
「なし」に設定されます。
- ◎ ワンタッチキーは複数ユー
ザの同時ログインをサポート
していません。使用する場
合は、1 ユーザでログインし
てください。

■[P1] キー

ワンタッチキーの一つです。電子マニュアル検索ソフト「CyberSupport(サイバーサポート)」を立ち上げます。

■[P2] キー

ワンタッチキーの一つです。アプリケーションの立ち上げが簡単にできる「Priusで楽しもう」が立ち上がります。

■[Num Lock] ランプ

点灯：[Num Lock] キーを押すと、切り替えられます。
キーボードのテンキーの数字などが入力できます。
消灯：[↑][↓][←][→] キーなどが入力できます。

■[Caps Lock] ランプ

[Shift] キーを押しながら [Caps Lock] キーを押すと、切り替えられます。
点灯：大文字のアルファベットが入力できます。
消灯：小文字のアルファベットが入力できます。

■[Scroll Lock] ランプ

[Scroll Lock] キーを押すと切り替えられます。ランプが点灯しているときは、表示画面を移動できません。ランプが消灯すると移動できるようになります。ソフトウェアによって動作が異なる場合もあります。

■[Stop] (■) キー

ワンタッチキーの1つです。音楽 CD や DVD ビデオの再生を停止します。

■[Play&Pause] (▶/⏸) キー

ワンタッチキーの1つです。音楽 CD や DVD ビデオの再生や、再生を一時停止します。

■[Rew] (◀◀) キー

ワンタッチキーの1つです。音楽 CD や DVD ビデオの再生を前の曲や前のチャプターに移動します。

■[FF] (▶▶) キー

ワンタッチキーの1つです。音楽 CD や DVD ビデオの再生を次の曲や次のチャプターに移動します。

■[MUTE] キー

ワンタッチキーの1つです。Windows やアプリケーションが出力する音量を消したり、元に戻します。

■[▼] キー

ワンタッチキーの1つです。Windows やアプリケーションが出力する音量を下げます。

■[▲] キー

ワンタッチキーの1つです。Windows やアプリケーションが出力する音量を上げます。

ヒント

- ★ ワンタッチキーで立ち上げるアプリケーションを変更することもできます。

参照

変更の方法→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「ワンタッチキーを設定する」

ヒント

- ★ [Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock] のインジケーターを画面に表示させることもできます。

参照

画面表示について→電子マニュアル『パソコン応用』1章の「ワンタッチキーを設定する」

重要

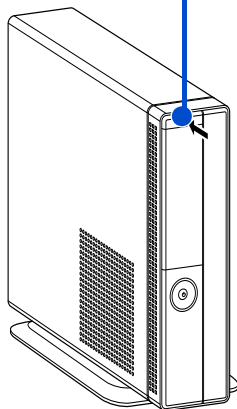
- ◎ [Stop]、[Play&Pause]、[Rew]、[FF] キーは、音楽 CD や DVD ビデオを再生するアプリケーションによっては、使用できない場合があります。また、そのアプリケーションの画面が選択されていないと、使用できません。

CD/DVD ドライブのディスクの入れ方 / 取り出し

1

イジェクトボタンを押す

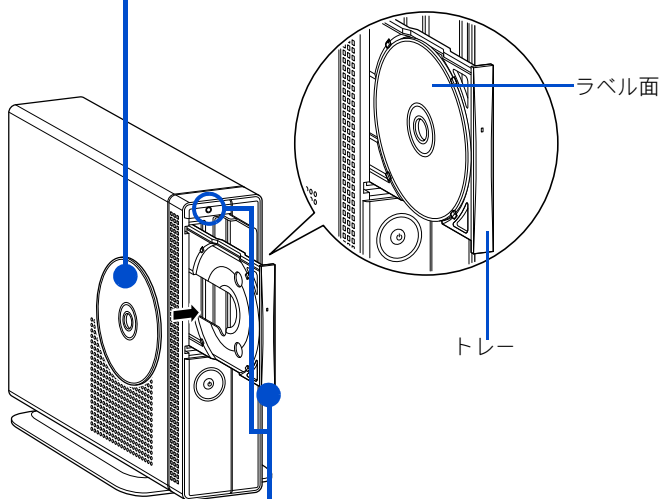
▼ トレーが出てきます。



2

ディスクの表側（ラベルが書かれている面）を左に向け、手を添えながらディスクを固定する

ディスクを取り出すときは、イジェクトボタンを押してトレーを引き出し、ディスクに手を添えながら取り出します。



3

イジェクトボタンを押す
またはトレーを軽く押して閉める

ヒント

★ パソコンの電源が入っていないと、トレーは出てきません。

ヒント

★ 使用しているアプリケーションソフトによっては、アプリケーション画面の取り出しボタンを押さないと、トレーが出てこない場合があります。

重要

◎ ディスクの強制取り出しは、パソコンカバーを取り外して行ってください。

参照

パソコンカバーの取り外し→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」

重要

◎ 8cm CD-ROM などを使用する場合は、パソコンを横置きでご使用ください。また、名刺型ディスクなどの変形ディスクは使用できません。これらのディスクはアダプターを取り付けても使用できません。

参照

使用できるディスクの種類→電子マニュアル『パソコン応用』6章の「ドライブの仕様」

ヒント

★ ディスクをセットしトレーを閉めると、ディスクの動作を選択する画面が表示されることがあります。

5

いろいろな使い方をするために

6. 再セットアップについて

ここでは、パソコンをご購入時の状態に戻すまでの方法について説明します。パソコンの使用中にエラーが何回も発生したり、パソコンが立ち上がらないときは、再セットアップし直してください。

作業の流れ

パソコンをご購入時の状態に戻すまでの作業の流れは次の通りです。

1 準備する

再セットアップする前に必要なファイルのバックアップをとります。インターネットやメールなどの設定も控えておきます。

2 一括インストールを行う

一部のアプリケーションを除いて、パソコンをご購入時の状態に戻します。

3 アプリケーションをインストールする

一括インストールで元に戻らないアプリケーションをインストールします。

4 電子マニュアルをインストールする

一括インストールで元に戻らない電子マニュアルをインストールします。

1 準備する

次の準備を行ってください。

必要なファイルをバックアップする

ご購入時の状態に戻すと、それまでに作成したファイルや、追加したアプリケーションなどが削除されます。CD-R や CD-RW などのディスクに必要なファイルをコピーしてバックアップをとってください。

バックアップファイルに戻せるように元のフォルダー名など、保存先も控えてください。

参照

詳細について→「1 準備する」

参照

詳細について→「2 一括インストールを行う」

参照

詳細について→「3 アプリケーションをインストールする」

参照

詳細について→「4 電子マニュアルをインストールする」

参照

コピーの方法について→『パソコン入門』の「3. ファイルを使う」

参照

バックアップの方法について

→『困ったときの Q&A』の 1 章「パソコン Q&A」の「データのバックアップ」

→『アプリケーションガイド』の「安心楽々引越しバック」でデータを移動する

標準のフォルダー位置について

→『アプリケーションガイド』の「標準ユーザデータの保存場所」

インターネットの設定を控える

ご購入時の状態に戻したあと、加入しているプロバイダーに再び接続できるように、ユーザー名、パスワード、アカウント名など、インターネットの設定に必要な情報をメモしてください。通常は、契約時にプロバイダーから送付された書類にこれらの情報が記載されています。

周辺機器を全て取り外す

ご購入後に周辺機器を取り付けている場合は、再セットアップの前に取り外してください。

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定を変更している場合は、BIOS をご購入時の状態に戻してください。

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す（初期化する）ことで解決できる問題もあります。購入時の状態から設定を変更している場合は、設定内容をあらかじめ控えておき、BIOS を初期化したあとに設定し直してください。

1 パソコンの電源を入れる。

パソコンの立ち上げ中、画面下部に「Press DEL to enter SETUP, F12 to enter BOOT MENU」と表示されたら、[Delete] キーを押す。

▼ BIOS メニューが立ち上がる。

重要

- ◎ BIOS の設定を初期化しても内蔵タイマーの日付と時刻は変更されません。
- ◎ ディスプレイによっては、電源を入れても画面表示に時間がかかり、「HITACHI」ロゴやメッセージが表示されない場合があります。この場合、BIOS メニューを立ち上げるには、パソコンの電源を入れてから、約 15 秒間 [Delete] キーを押し続けてください。しばらくすると、BIOS メニューが表示されます。

ヒント

- ★ PC カードを取り付けているときは、取り付けた PC カードをパソコンから取り外してください。外さないと正しく動作しない場合があります。

参照

PC カードの取り外しについて→電子マニュアル『パソコン応用』3章の「PC カードを使う」

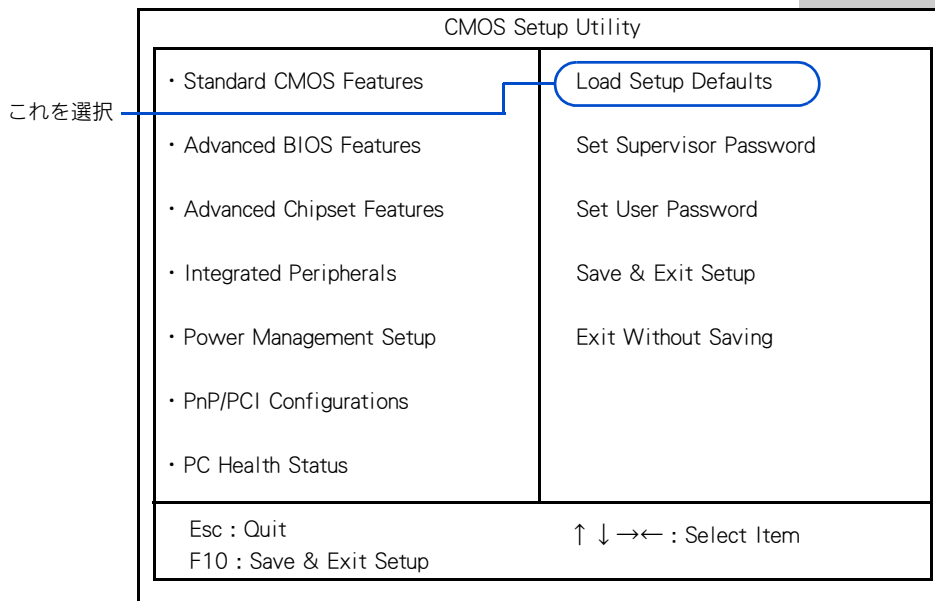
ヒント

- ★ 拡張ボードを増設しているときは、増設した拡張ボードをパソコンからすべて取り外してください。外さないと正しく動作しない場合があります。

参照

拡張ボードの取り外しについて→電子マニュアル「パソコン応用」3章の「拡張ボードを取り付ける」

2 [↑]、[↓]キーで、[Load Setup Defaults]を選び、[Enter]キーを押して、「Load Setup Defaults (Y/N)?」と表示されたら[Y]キー、[Enter]キーを押す。



3 [F10] キーを押す。

4 [SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?] と表示されたら [Y] キーを押し、[Enter] キーを押す。

▼ 設定した内容が保存され、BIOSメニューが終了しパソコンが立ち上げ直される。

ヒント

★ BIOSメニューで「Save & Exit Setup」を選び、[Enter]キーを押しても同じ操作ができます。

必要なディスクを用意する

パソコンに付属の、次のディスク類を使用します。

- ・『再セットアップDVD』
- ・『Microsoft® Office Personal Edition 2003』
- ・『Microsoft® Office Home Style+』
- ・『活用百科』
- ・『かんたんラベル王 for HITACHI』

2 一括インストールを行う

重要

◎ 「再セットアップ DVD」を CD/DVD ドライブに入れてもメニューが立ち上がらないときは、「再セットアップ DVD」を入れたまま、パソコンを立ち上げ直してください。

この作業を行うと、一部のアプリケーションを除いて、パソコンの HDD をご購入時の状態に戻します。さらに、システムパーティションのサイズを変更したり、システムパーティションのみご購入時の状態に戻すこともできます。

あらかじめパソコン付属の次のディスクを用意してください。

■『再セットアップ DVD』

1 パソコンの電源を入れ、すぐに『再セットアップ DVD』を CD/DVD ドライブに入れる。

▼ メニューが表示される。

```
*****
**
** 一括インストールを行います
**
** この作業を行うと、一部のアプリケーションを除いて
** パソコンのハードディスクをご購入時の状態に戻します。
** さらに、ドライブ C のサイズを変更したり、
** ドライブ C のみご購入時の状態に戻すこともできます。
**
** 続行するとハードディスクの内容が一部消去されます
** 必要なデータなどがある場合は一括インストールを中断して
** 先にバックアップを取ってください
**
*****
: (1) 一括インストールを行う :
+-----+
: (2) 一括インストールを中断する :
+-----+
                選択 (1/2)?:
```

2 [1] キーを押す。

▼ 次のメッセージが表示される。

```
*****
**
** 一括インストールを行います。
**
**
** 一括インストールの方法を選択してください
**
*****
: (1) 現在のドライブ C だけを一括インストールする
:   -現在のドライブ C の内容は消去されます
:   -ドライブ C 以外のドライブは消去されません。
:   -ドライブ C の容量は変更できません。
+-----+
: (2) ハードディスクを初期化した後、一括インストールする
:   -ハードディスクのデータはすべて削除されます。
:   -新たにドライブ C の容量を設定できます。
+-----+
: (3) 一括インストールを中断する
+-----+
                選択 (1/2/3)?:
```

- ※ (1) を選ぶと、OS やアプリケーションなどをドライブ C に回復します。ドライブ C 以外のパーティションは初期化されません。ドライブ C のパーティションサイズは変更できません。
- ※ (2) を選ぶと、OS やアプリケーションなどをドライブ C に回復します。ドライブ C 以外のパーティションも初期化されます。
- ※ (3) を選ぶと OS やアプリケーションなどのインストールを中止します。

重要

◎ 工場出荷時はドライブ C 以外にデータバックアップ用の 5GB のパーティションが設定されています。通常は (1) を選択してください。

3 [1] または [2] キーを押す。(1) を選んだ場合は、次の画面が表示される。(2) を選んだ場合は、手順 5 に進む。

```
*****
**
** 現在のドライブ C に一括インストールを行います。
**
** <警告>
** 続行するとドライブ C の内容はすべて消去されます。
** 必要なデータなどがある場合は一括インストールを中断して
** 先にバックアップを取ってください。
**
** 現在のドライブ C に対して一括インストールを行いますか？
**
*****
: (1) 現在のドライブ C に一括インストールする
:   -ドライブ C のみを初期化し、一括インストールを行います。
+-----+
: (2) 一括インストールを中断する
+-----+
                選択 (1/2)?:
```


- ※ (1)を選ぶと、OS やアプリケーションなどをドライブCに回復します。ドライブC以外のパーティションは初期化されません。ドライブCのパーティションサイズは変更されません。
- ※ (2)を選ぶと、OS やアプリケーションなどのインストールを中止します。

4 一括インストールを行う場合は、[1]キーを押して、手順9へ進む。
[2]キーを押すと中止します。

5 手順3で(2)を選んだ場合は、次の画面が表示される。

```

*****
**
**   新規にドライブ C をハードディスクに作成した後
**   一括インストールを行います。
**
** <警告>
**   続行するとハードディスクの内容はすべて消去されます。
**   必要なデータなどがある場合は一括インストールを中断して
**   先にバックアップを取ってください。
**
**   一括インストールを続行しますか？
**
*****
:(1) 続行                                     :
:   -ハードディスクを初期化し、一括インストールを行います。       :
+-----+
:(2) 一括インストールを中断する               :
+-----+
                                     選択 (1/2)?:

```

- ※ (1)を選ぶと、ハードディスクの初期化を行ったあと、新規に作成するドライブCのサイズ変更画面へ進んでください。
- ※ (2)を選ぶと、OS やアプリケーションなどのインストールを中止します。

6 [1] キーを押す。

▼ ドライブ C のサイズ変更画面が表示される。

```
*****  
**  
**   ハードディスクに新規に作成するドライブ C のサイズを   **  
**   指定します。                                             **  
**  
**   設定可能なドライブ C のサイズの範囲は                 **  
**       最小値：XXXXXXXXXX MB                               **  
**       最大値：XXXXXXXXXX MB                               **  
**   です。                                                  **  
**  
**   ー設定可能なサイズの範囲内でドライブ C のサイズを入力した後、**  
**   Enter キーを押してください ( サイズの単位は MB )。   **  
**   ーサイズを入力しないで Enter キーを押すと           **  
**       デフォルト値：XXXXXXXXXX MB                       **  
**       で新規にドライブ C を作成します。                 **  
**  
*****  
ドライブ C のサイズを入力してください：
```

7 新規に作成するパーティションのサイズを入力する。

サイズを変更する場合は、設定範囲内でサイズを入力したあと、
[Enter] キーを押す。

デフォルト値のサイズを使用する場合はそのまま [Enter] キーを押す。

▼ 次のメッセージが画面下に表示される。

```
指定されたドライブ C のサイズ XXXXXXXXXXXX MB  
これよろしいですか？ ( Y = はい / N = いいえ )：
```

8 指定したドライブ C のサイズに問題がなければ [Y] キーを押して 手順 9 に進む。

▼ [N] キーを押すと手順 6 に戻る。

- 9 OSの回復作業終了画面が表示されたら、パソコンから『再セットアップDVD』を取り出し、[Ctrl]キーと[Alt]キーを押しながら、[Delete]キーを押してパソコンを立ち上げ直す。

```
*****  
**  
** Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition **  
**  
** 一括インストールは正常に終了しました。 **  
**  
** パソコンからDVD-ROMを抜いた後、 **  
** CTRL+ALT+DELキーを同時に押してパソコンを再起動して **  
** ください。 **  
**  
*****
```

- 10以降、Windowsのセットアップ手順に従って、Windows環境をセットアップする。

参照

詳細について→「3. 電源を入れよう」「使用許諾契約に同意しよう」

参照

セットアップ手順について→「3. 電源を入れよう」

重要

- ◎ 次項の「3. アプリケーションをインストールする」に進むにはWindowsのセットアップが必要です。

3 アプリケーションをインストールする

一括インストールで、元に戻らないアプリケーションを Windows のセットアップ後にインストールします。添付ソフトウェアの CD-ROM などを使います。

添付ソフトウェアの CD-ROM からインストール

詳細については、各添付ソフトウェアに付属のマニュアルをご参照ください。

■Microsoft® Office Personal Edition 2003

付属の『スタートガイド』をご参照ください。インストール時にセットアップオプションを選べます。必要に応じて選んでください。

■Microsoft® Office Home Style+

付属の『スタートガイド』をご参照ください。ご利用になるには、Microsoft® Office Personal Edition 2003 がインストールされている必要があります。

■かんたんラベル王 for HITACHI

次の手順でインストールします。

1 「かんたんラベル王 for HITACHI」ディスクを、CD/DVD ドライブに入れる。

▼自動的に「アプリケーション インストールメニュー」が立ち上がる。

2 「インストール」ボタンをクリックし、インストールする。

「アプリケーション インストールメニュー」が自動的に立ち上がらない場合は、次の手順で行ってください。

1 [スタート] ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする。

▼「ファイル名を指定して実行」が表示される。

2 e:\instmenu.exe と入力し、「OK」ボタンをクリックする。

※eはCD/DVDドライブ名

▼「アプリケーション インストールメニュー」が立ち上がる。「かんたんラベル王 for HITACHI」がインストールされていない場合は、画面左側のアプリケーションのチェックボックスにチェックが付いて表示される。

3 「インストール」ボタンをクリックする。

▼セットアップが始まる。

重要

- ◎ アプリケーションをインストールするときは、管理者権限を持つユーザー（アカウント）で行ってください。

■はじめてソフトを立ち上げた時の対応

次のアプリケーションをインストールしたあと、はじめて立ち上げたとき、番号などの入力が必要です。

アプリケーション名	番号の名称と記載場所
Microsoft® Office Personal Edition 2003	CD キー (25 桁) CD-ROM ケースの裏側 ライセンス認証

4 電子マニュアルをインストールする

一括インストールでは、電子マニュアルはインストールされません。電子マニュアルは、『活用百科』CD を使ってインストールします。詳しくは『パソコン入門』をご参照ください。

重要

- ◎ 添付の Microsoft® Office Personal Edition 2003 をインストールし直した場合、ライセンス認証が必要です。ライセンス認証を受けない場合、立ち上げ回数が許諾回数を超えると、ファイルの作成更新などの機能が使用できなくなります。ライセンス認証の方法は、『スタートガイド』をご参照ください。

参照

詳細について→『パソコン入門』1章の「電子マニュアルを使う」

6

付録

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法についての制限や、CD/DVD ドライブの使い方などについて説明します。

ご使用上の注意事項

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

- ・寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
- ・暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
- ・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ・ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
- ・温度変化が激しい場所や湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- ・腐食性ガス（特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気などが発生する場所に設置しないでください。このような場所では、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食することにより、電子部品の接触抵抗が増加したり、稼働部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。
- ・パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合は、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生して不都合が生じることがあります。この対策として、交流無停電電源装置を使用されることをおすすめします。
- ・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
- ・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によって静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくいものをお使いください。

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

- ・お客様が作成されたデータ（画像データ、映像データ、文書データなど）やメール、プログラム、各種の設定内容は、お客様の責任においてバックアップをお取りください。誤操作や故障などにより、パソコンの記憶装置（HDD など）からデータが失われたり、使用できない場合がありますが、保証書に定められた保証サービスを除き、これによる損害などの責任は当社では一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。お客様が作成されたデータなどは普段からこまめにバックアップをお取りになることをおすすめします。

参照

動作時周囲温度について→電子マニュアル『パソコン応用』6章の「パソコン仕様一覧」

参照

最適な温度と湿度→電子マニュアル『パソコン応用』6章の「パソコン仕様一覧」

- ・ 本製品は日本国内仕様です。当社では海外での保守サービスおよび技術サポートは行っておりません。
- ・ パソコンの破棄または譲渡の際には、HDD 上のデータが流出するトラブルを回避するために、HDD からデータを消去するソフトウェアまたはサービスをご利用いただくことをおすすめします。なお、HDD 上のソフトウェアを削除することなくパソコンを譲渡するとソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますのでご注意ください。
- ・ Windows の立ち上げ中や使用中に、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが働くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は、再セットアップをしないとパソコンが使用できない場合もあります。
- ・ パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。
- ・ 磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
- ・ マウスやモデムなど外部からのノイズに弱い機器があります。誤動作をする場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付き O A タップからとることをおすすめします。
- ・ パソコンを一度終了したら、再度起動するのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。

パソコンおよび周辺機器に関するご注意

- ・ 本パソコンではプレインストールしているオペレーティングシステム (OS) 以外の OS は、当社のサポート外となります。
- ・ 本パソコンはすべての USB 対応周辺機器、i.LINK 対応周辺機器 (デジタルビデオカメラを含む) および、PC カード周辺機器の動作を保証するものではありません。
- ・ 本パソコンはビデオ・画像編集専用機ではありません。取り扱いには Windows パソコンの基本操作についての習熟が必要となります。
- ・ プレインストールおよび添付のソフトウェアは、市販のパッケージ商品と機能や添付品・マニュアルなど異なるものがあります。また、マニュアルについてはソフトウェアのヘルプ機能や電子マニュアルで代用しているものがあります。
- ・ 通信中や HDD、CD/DVD ドライブの読み込み、書き込み中にパソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行ったり、節電機能を働かせないでください。故障の原因となります。
- ・ パソコン内蔵のモデムでは、Windows 標準の「ダイヤラ」は使用できません。
- ・ モデム着信による休止状態および、電源を切った状態からの復帰はできません。
- ・ コマンドプロンプトで、キーボードの [Stop]、[Play&Pause]、[Rew]、[FF] キーを押すと、コマンドラインに関係のない文字が入力される場合があります。
- ・ command.com を使用する場合は、フルスクリーンで実行しないでください。コマンド入力ができなくなります。
- ・ Windows でコマンドプロンプトを使用する場合は、英語環境にしないでください。正しく動作しないことがあります。

ディスプレイに関するご注意

- ・ 液晶ディスプレイは、画面の一部にドット欠けや常時点灯が存在する場合がありますが、故障ではありません。
- ・ 本パソコンに付属のディスプレイは専用ディスプレイです。増設ビデオカードや他のパソコンで正しく表示することを保証するものではありません。
- ・ 液晶ディスプレイの表面を強く押ししたりすると、故障の原因となることがあります。
- ・ 液晶ディスプレイ表面に水滴や指紋など汚れが付いたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

USB 機器の使用について

- ・ 特定の USB 機器を複数接続した場合や、特定のデバイスとの組み合わせにおいて、接続した機器が使用可能な状態にならない場合があります。この場合は、USB ケーブルを抜き差しして、その機器をシステムに再度認識させてください。
- ・ 特定の USB 機器を接続した場合、節電機能への移行／復帰が正常に行えない場合があります。この場合は節電機能を使用しないでください。

CD/DVD ドライブに関するご注意

DVD マルチドライブ

- ・ パソコンの電源を切るときには、必ずディスクを取り出してからにしてください。
- ・ トレーやドライブの内部に異物を入れないでください。ドライブの故障の原因となります。
- ・ ドライブの使用中に振動を与えないでください。データを正しく読み込めないことがあります。
- ・ ディスクアクセスランプが点灯、点滅しているときは、イジェクトボタンを押さないでください。
- ・ 他のパソコンで作成されたディスクについて、本パソコンでの動作を保証するものではありません。
- ・ 本パソコンで作成した CD-R/CD-RW、DVD-R/DVD-RAM/DVD-RW ディスクは他のパソコンやプレーヤーでは読み込めない場合があります。
- ・ 通常は、ディスク強制イジェクトスイッチを使用しないでください。ただし、イジェクトボタンを押してもトレーが出ないときはディスク強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。
- ・ オプションの FDD など、データの転送速度が遅いドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
- ・ CD-R や CD-RW にデータを書き込む時は、他のアプリケーションを終了してください。書き込み中も他のアプリケーションを立ち上げないでください。書き込みを失敗することがあります。

CD/DVD ディスクに関するご注意

- ・ 割れたり変形したディスクを使用しないでください。故障の原因になります。
- ・ ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ・ ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ・ ディスクは温度、湿度が高い場所、直射日光の当たる場所に保管しないでください。
- ・ ディスクは温度差のはげしい場所には保管しないでください。
- ・ ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ・ ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ・ ディスクにラベルなどをはらないでください。ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
- ・ DVD-RAM などのカートリッジタイプのディスクを、カートリッジから取り外して使用するとき、記録面に触らないなど、取り扱いに注意してください。正しく扱わないと、記録されているデータが損なわれたり、ドライブの故障の原因となります。
- ・ お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。
- ・ CD-RW の書き換え可能回数は 1000 回程度です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。
- ・ DVD-RAM の書き換え可能回数は 10 万回程度です。10 万回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。
- ・ DVD-RW の書き換え可能回数は 1000 回程度です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。
- ・ ディスクによっては、一部書き込み速度に対応していない場合もあります。
- ・ DVD-ROM ドライブでは、次のディスクは使用しないでください。
- ・ 名刺型、ハート型などの異形ディスクを入れないでください。ディスクを取り出せなくなる場合があります。また、DVD-ROM ドライブやディスクが壊れることがあります。
- ・ 縦置きで使用する場合は、シングルディスクなどの 8cm 小径ディスクを入れないでください。ディスクを取り出せなくなる場合があります。
- ・ 縦置きで使用する場合は、8cm 小径ディスクの 12cm 変換アダプターは使用しないでください。故障の原因になります。
- ・ ”DVD Slim disc” と称するディスクを入れないでください。ディスクを取り出せなくなる場合があります。

CD/DVD 再生に関するご注意

- ・ 本パソコンでは地域番号（リージョンコード）として「2」または、「ALL」が記載されていない DVD ビデオディスクは再生できません。
- ・ 本パソコンにオーディオ機器を接続してお聞きになるときは、スピーカーを保護するため、いったんオーディオ機器の音量を下げて正常に再生できることを確認してからご使用ください。
- ・ 本パソコンはソフトウェアを用いて DVD を再生（デコード）しています。このためディスクによっては、操作および機能に制限があったり、CPU 負荷などのハードウェアの制限で映像がコマ落ちしたり、音がとぎれることがあります。
- ・ 本パソコンはすべての DVD ビデオタイトルの再生を保証するものではありません。DVD ビデオタイトルによっては、正しく再生できない場合があります。
- ・ 現在発売されています「コピーコントロール CD」は CD 規格に準拠していない特殊ディスクです。本パソコンでの CD 再生および録音の動作を保証するものではありません。通常の CD の再生には支障がなく、特殊ディスクの再生時にもみ支障がある場合には、パソコンの故障・不具合ではありません。

「PriusAir View」に関するご注意

- ・ CATV の受信で、スクランブルのかかった放送の視聴・録画はできません。詳しくはご利用となる CATV 会社へお問い合わせください。
- ・ 著作権保護の信号が入った映像は録画することはできません。視聴においても映像が乱れることがあります。
- ・ BS・CS などの衛星放送や、地上デジタル放送は、本パソコンの内蔵チューナーでは受信できません。
- ・ 同期信号が乱れた映像を入力した時には、映像が途切れたり、録画に失敗することがあります。

著作権についてのご注意

- ・ 音楽、画像、映像などは著作権法により、その著作権者および著作権者の権利が保護されています。権利者の了解なく無断でこれを複製（データ形式の変換を含む）、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うことは著作権法上できません。
- ・ 著作権保護のための信号が記録されている市販映像は、本パソコンへ取り込むことはできません。

ヒント

- ★ テレビチューナーモデルに関するご注意です。

HDD の容量表示について

- ・ HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
- ・ HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
- ・ 取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、* は BIOS メニューの IDE の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
* GB	* × 1000000000 バイト以上

リモコンに関する制限

- ・ 太陽光などの強い光が入るところを避けて使用してください。
- ・ リモコンを落としたり、衝撃を与えたり、足で踏んだりしないでください。部品がこわれ、故障の原因となります。
- ・ リモコンに水をかけたり、濡れたものの上に置かないでください。故障の原因となります。
- ・ パソコンのリモコンは次の範囲でご使用ください。
距離：発光部をパソコンのリモコン受光窓に向けて、正面から 5m 以内
角度：左右 ± 15° の場合 3m 以内

ヒント

- ★ リモコンはテレビチューナー内蔵モデルに同梱されています。

光学式マウスに関するご注意

- ・ マウス底面から発せられる赤い光を直接見ると、眼を痛める場合があります。赤い光を直接見ないでください。
- ・ センサー部分を汚したり、傷をつけないでください。
- ・ 光学式マウスは、次のような表面では正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢があるもの
 - ・ 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの



他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。

それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

- ・ Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
- ・ その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

接続と準備

— 最初に読む本 —
初 版 2003 年 12 月

無断転載を禁止します。

落丁・乱丁の場合はお取り替えいたします。

株式会社 日立製作所 インターネットプラットフォーム事業部

〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地
お問い合わせ先: 安心コールセンタ 0120-8855-96

Copyright © Hitachi, Ltd. 2003. All rights reserved.



このマニュアルは、再生紙を使用しています。

630H710P0-1

マニュアルの使い方

はじめてパソコンを使うときは

接続と準備
— 最初に読む本 —



接続などの準備について説明しています。



パソコン入門



基本的な操作方法や電子マニュアルの見方を説明しています。

パソコンの操作に慣れたら

始めよう！
インターネット
(電子マニュアルのみ)



- 1章 インターネットに接続する
- 2章 ホームページを見てみよう
- 3章 メールを使ってみよう

インターネットの始め方について説明しています。

始めよう！
TVエンターテインメント



テレビ専用アプリケーションについて説明しています。

詳しい情報を 知りたいときは

パソコン応用
(電子マニュアルのみ)



- 1章 応用操作
- 2章 消費電力を節約する
- 3章 パソコンを拡張する
- 4章 セットアップする
- 5章 日常のお手入れ
- 6章 技術情報

パソコンの拡張方法や再セットアップ方法について説明しています。

アプリケーションを 操作したいときは

アプリケーション
ガイド



各アプリケーションの簡単な使い方について説明しています。

トラブルが起きて しまったら

困った時のQ&A



トラブルの解決方法や問い合わせ先などを紹介しています。



紙マニュアルと電子マニュアルがあります。どちらも同じ内容です。



電子マニュアルのみです。紙マニュアルはありません。

“知りたい・困った・調べたい”を
「CyberSupport」で解決 (「パソコン入門」参照)

「CyberSupport」は、知りたいことや調べたいことが検索できる、便利なアプリケーションです。調べたい言葉を入力すると、電子マニュアルやアプリケーションのヘルプの中から答えを探し出してくれます。

アプリケーションを使いこなすには
「Priusで楽しもう！」(「アプリケーションガイド」参照)

電子マニュアル「Priusで楽しもう！」では、アプリケーションの事例について詳しく説明しています。アプリケーションを使うときの参考にしてください。